ユーザーガイド

大判フラットベッドスキャナ



モデル：IQ FLEX　UG JP Oct 2026

目次

このガイドについて 2
主な仕様 3
インストール 4
スキャナの設置要件 4
設置時の補助と安全 4
開梱 5
梱包材に関する注意 5
スキャナの設置場所 6
スキャナを持ち上げる 7
クリーニング 8
スキャンガラス面の確認 8
ガラス面の清掃 9
初めて使用するための準備 10
電源の接続 10
タッチスクリーンの準備 12
有線LANへの接続 13
電源を入れる 14
起動ウィザード 15
IQ FLEXのタッチスクリーン 16
ウィザードの実行 17
有線LANの設定 18
LAN設定 18
言語 19
日付と時刻の設定 20
メールサーバーの設定 21
プリンタの設定 22
オンラインでのライセンス認証 24
オフラインでのライセンス認証 25
Secure FTPサーバーの設定 27
電源の入れ方と切り方 29
主電源スイッチ 29
スリープモード 29
スキャン 30
基本的な手順 30
スキャンの準備 31
標準スキャンモード 32
オーバーサイズスキャンモード 33
Bookスキャンモード 34
厚い原稿用のカバー調整 35
原稿のセット 36
用紙サイズと位置合わせガイド 37
オーバーサイズ原稿の読み取り 40
オーバーサイズ原稿のセット 41
本のセット 42
本体だけで本をスキャンする 43
Nextimageで本をスキャンする 44
入力サイズに関する補足 45
USBメモリに保存する 46
メールで送信する 47
厚い原稿のスキャン 49
PCへのスキャン保存 50
ファイル保存のスキャン設定 51
カラーの確認と編集（線の追加） 52
カラーの確認と編集（文字の追加） 53
カラーの確認と編集（明るさの変更） 54
グレーの確認と編集（明るさの変更） 55
白黒の確認と編集（線を濃くする） 56
Contex LINKスキャンクライアント 57
コピー 58
コピーの基本的な手順 58
コピー設定 59
各種設定 61
WIDEsystem 62
Nextimage 62
管理者コンソール 63
スキャナのメンテナンス 64
スキャンエリアの清掃 65
ガラス面の清掃 66
白い背景板の交換 67
スキャナ補正の準備 68
スキャナの補正 69
本体ソフトウェアの更新 71
Contex LINKクライアントの更新 72
スキャナのトラブル対処 73
技術サービス 73
インストールに関する問題 75
操作に関する問題 76
スキャン結果に関する問題 77
安全に関する重要な注意事項 78
規則 79
FCC規則 79

概要

このガイドについて

このユーザーガイドは、次のモデルを対象としています。

スキャナモデル	説明
IQ FLEX	18インチ／A2対応フラットベッドカラースキャナ

国際エネルギースタープログラム準拠

このガイドでは、大判フラットベッドスキャナの操作と保守について説明します。

コンピュータとオペレーティングシステムの基本的な知識を前提とし、それぞれの取扱説明書に記載されている事項は繰り返し説明しません。

次の項目を必ずお読みください。

1. 「インストール」：スキャナの正しい設置とライセンス認証の方法を説明します。
2. 「安全に関する重要な注意事項」
3. 「スキャナのメンテナンス」：最適なスキャン結果を得るための保守方法を説明します。

概要

主な仕様

IQ FLEXは、タッチスクリーンコントローラを搭載したA2対応フラットベッドスキャナです。破れやすい原稿、不定形の原稿、厚みのある原稿など、他のスキャナでは読み取りにくい原稿をスキャンできます。最大A1までのオーバーサイズスキャンに対応します。有線LAN経由でPCに保存でき、本体のUSB端子を使ってUSBメモリに直接保存することもできます。

接続	ギガビットイーサネット
USBメモリへの保存	本体にUSB 3.0端子を搭載
カラースキャン速度（200 dpi）	スキャン面全体を6秒で読み取り
モノクロスキャン速度（200 dpi）	スキャン面全体を6秒で読み取り
標準スキャンサイズ	A2／Cサイズ
オーバーサイズスキャン	A1／Dサイズ
オーバーサイズのスキャン幅	ARCH C＋30 mm：18インチ＋30 mm＝487.2 mm
オーバーサイズのスキャン長	ARCH C＋30 mm：24インチ＋30 mm＝639.6 mm
光学解像度	1200×1200 dpi
最大解像度	9600 dpi
精度	0.1% ±1ピクセル
CIS	Canon製CIS
消費電力（待機／スリープ／スキャン）	最大10 W／0.5 W／23 W
本体重量／寸法（幅×奥行×高さ*）	35 kg／661×1176×194 mm
梱包時重量／寸法（幅×奥行×高さ）	43 kg／840×1310×290 mm
梱包方法	厚手の段ボール箱と発泡材の緩衝フレーム
動作時の最高周囲温度	メーカー仕様の最高周囲温度（Tma）40°Cで評価済み。

*タッチパネルを立てた状態

スキャナの設置

インストール

スキャナの設置要件

- 75×135 cm以上の頑丈で平らな台を使用し、台の上に80 cm以上の空間を確保してください。
- アース付き電源コンセント。
- 付属のContex LINKソフトウェアを実行する、ネットワークに接続したPC。
- ギガビットイーサネットの接続口。

設置時の補助と安全

- 開梱と設置は、十分な人数で行ってください。
- スキャナを運ぶ際は、梱包材につまずかないよう注意してください。

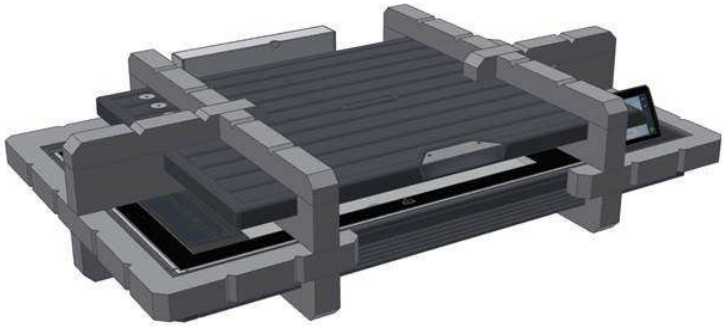
スキャナの設置

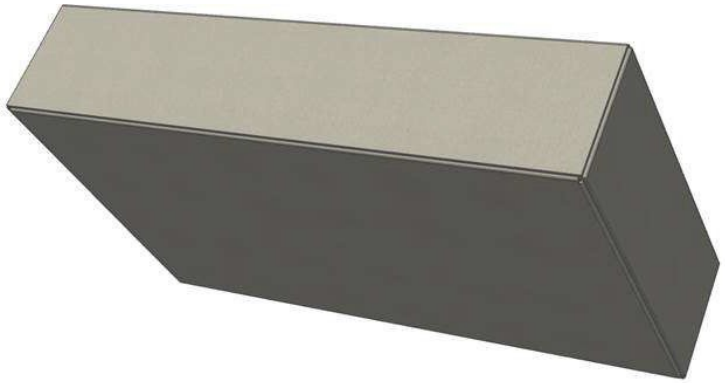
開梱

1 梱包材

梱包材に関する注意

- スキャナを別の場所へ移動する予定がある場合は、梱包材を保管してください。
- 空の梱包材で通路や非常口を塞がないでください。
- 不要な梱包材は、適切に処分してください。
- 処分する前に、アクセサリキットや書類が箱の中に残っていないことを確認してください。





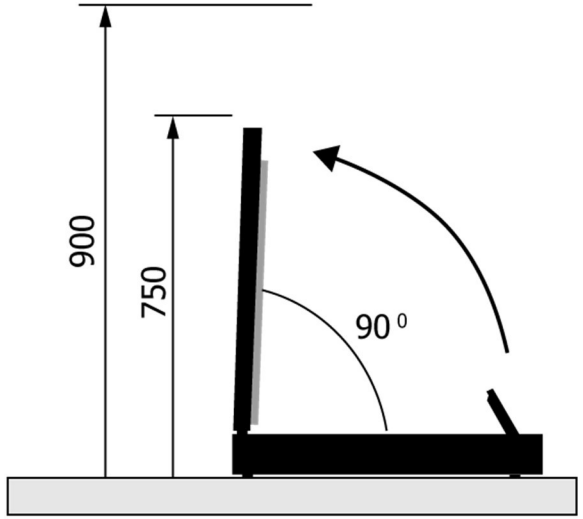
スキャナの設置

スキャナの設置場所

2 **重要**

スキャナは、頑丈な台などの安定した水平で平らな面に設置してください。背面のケーブル接続スペースを確保すれば、壁際に設置できます。カバーを完全に立てられる空間を上方に確保してください。保守時にカバーを取り外せるよう、900 mm以上の空間を設けることを推奨します。

設置面の凹凸でスキャナのフレームに力が加わらないようにしてください。平面に設置することは非常に重要です。スキャン品質が低下し、長期的に機器を損傷するおそれがあります。



スキャナの設置

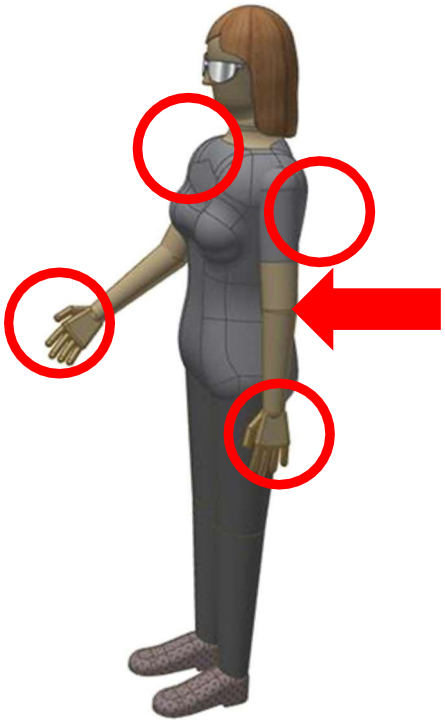
スキャナを持ち上げる

3

注意

スキャナは、底面にある4つのゴム脚で支えられています。

1. 注意：本体は35 kgあります。1人で持ち上げないでください。箱から取り出すときや移動するときは、必ず2人以上で行ってください。
2. スキャナを置く頑丈な台や設置面を用意してください。
3. 下ろす際に腰を痛めないよう、設置担当者が台の側面から無理なく作業できる空間を確保してください。
4. 脚が低いため、本体と設置面の隙間は小さくなっています。本体を下ろす際は、指を挟まないよう注意してください。



設置時に指を挟まないよう、十分に注意してください。

巻末の「安全に関する重要な注意事項」を参照してください。

スキャナの設置

クリーニング

スキャンガラス面の確認

4 カバーを開く

梱包や輸送中に内部のスキャンエリア（ガラス面）に付着したほこりを拭き取ってください。

カバーを持ち上げて、スキャンガラス面が見えるようにします。



ガラス面の清掃

5 スキャンエリアの清掃

糸くずの出ない乾いた布で、スキャンガラス面のほこりを軽く拭き取ります。

乾いた布で落ちない汚れがある場合は、「スキャンエリアの清掃」に記載された方法で入念に清掃してください。

内部のスキャンエリアを清掃したら、カバーを閉じます。



スキャナの設置

初めて使用するための準備

電源の接続

6

電源ケーブルを接続する
スキャナ側の接続

電源アダプタの専用プラグを、スキャナ背面パネルの丸い端子に差し込みます。プラグの平らな面を上に向けてください。無理に差し込まないでください。

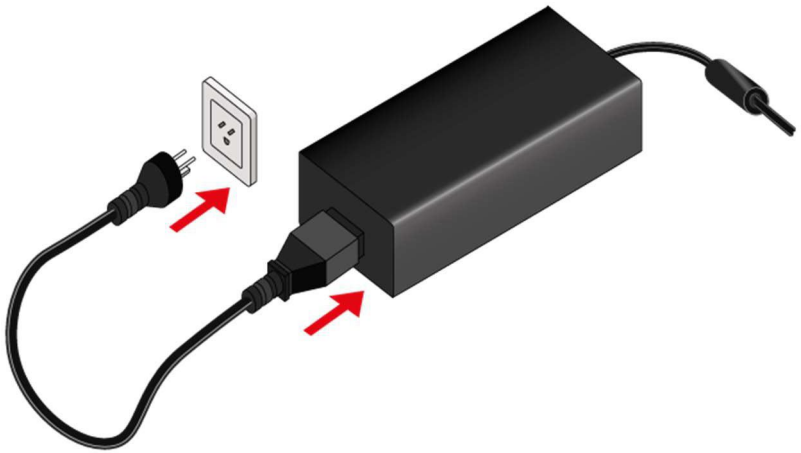
続いて、付属の電源コードを用意します。



7 電源アダプタを接続する
電源の接続

電源コードのコネクタを電源アダプタに差し込み、電源プラグを適切なコンセントに接続します。

注意：本機にはアース付き3極プラグが付属しています。コンセントに差し込めない場合は、電気工事担当者にアース付きコンセントへの交換を依頼するか、別のアース付きコンセントを使用してください。アース機能を無効にしないでください。



スキャナの設置

タッチスクリーンの準備

8 画面を立てる

画面の上端を持ち、上方へ起こして直立させます。

注：画面を上げ下げするときに、過度な力を加えないでください。



スキャナの設置

有線LANへの接続

9 ネットワークに接続する

背面パネルにあるネットワーク端子にLANケーブルを接続します。

赤枠のUSB端子は保守および将来の拡張用です。通常は使用しません。ケーブルやUSBメモリを接続しないでください。



スキャナの設置

電源を入れる

10 スキャナの電源を入れる

背面の電源スイッチを左側に切り替え、電源を入れます。

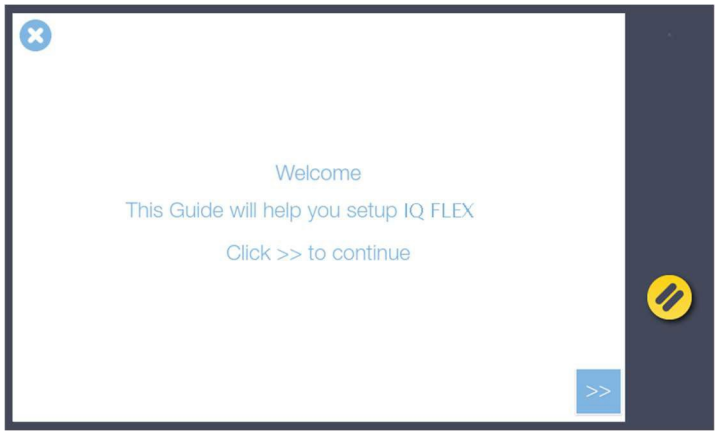


スキャナの設置

起動ウィザード

11 初めて電源を入れる

背面パネルの主電源スイッチを入れます。



注：初回起動時には、タッチスクリーンにIQ FLEXの設定ウィザードが表示されます。

ウィザードでは次の項目を設定します。

ネットワーク接続（プリンタおよびネットワーク上のPCとの通信）
言語（画面とキーボードは別々に設定可能）
日付と時刻
メールサーバー（スキャンデータのメール送信用）
スキャナのライセンス認証

各設定は省略できます。後で開始画面の設定アイコンから設定できます。

スキャナの設置

IQ FLEXのタッチスクリーン



リセット
どの状態からでも初期画面に戻します。

開始ボタン
必要な設定を行った後、スキャンやコピーを開始します。

スクロールメニュー
画面を左右にスクロールして、項目を表示・選択します。

スキャナの設置

ウィザードの実行

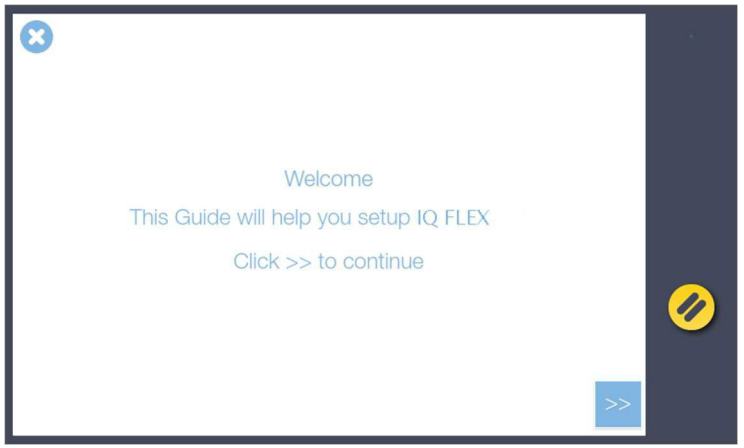
12 インストールウィザードの開始

IQ FLEXのようこそ画面が表示され、インストールが始まります。

画面の案内に従って初期設定を行います。完了後も、各ページに記載した設定メニューから変更できます。

［Next >>］を押して次へ進みます。

前の手順に戻る場合は、表示されている［Back <<］を押します。



スキャナの設置

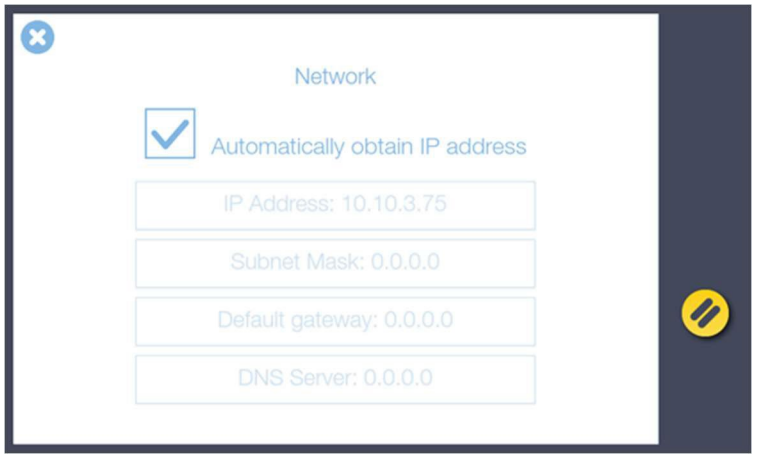
有線LANの設定

13 LAN設定（DHCP）

LANケーブルを接続すると、初期設定ではDHCPでIPアドレスを自動取得します。

[Settings > System > Network]

［Next >>］で次へ。



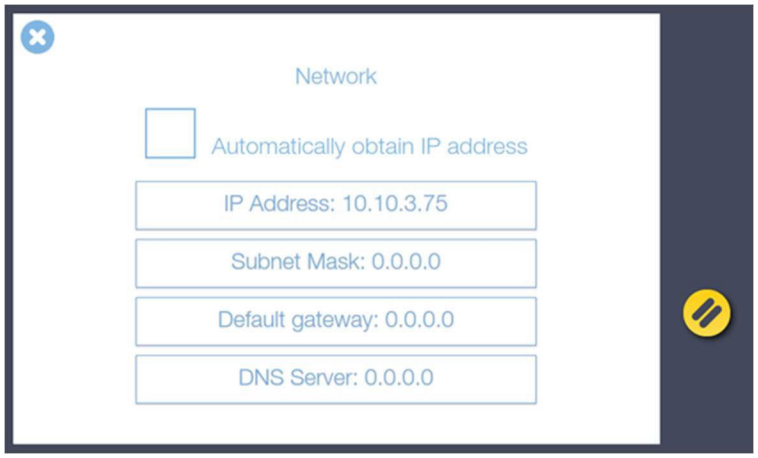
LAN設定

14 LAN設定（固定IPアドレス）

固定IPアドレスを使用する場合は、下記の設定経路から［Automatically obtain IP address］を解除し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。必要に応じてIT管理者に確認してください。

[Settings > System > Network]

［Next >>］で次へ。



スキャナの設置

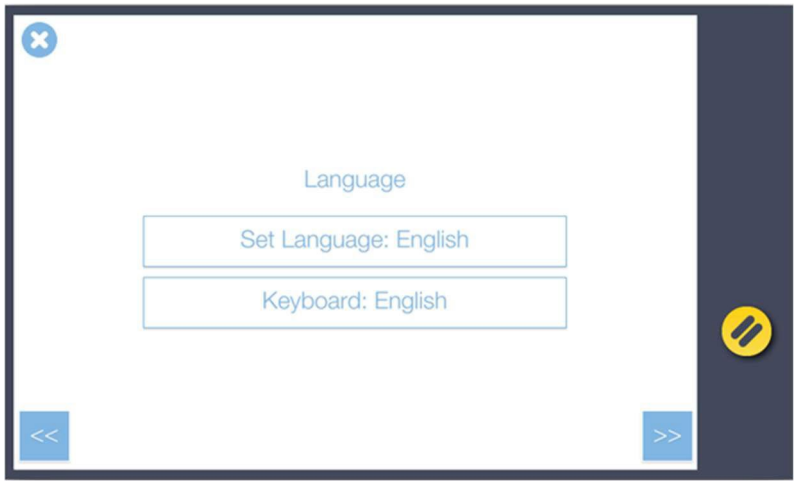
言語

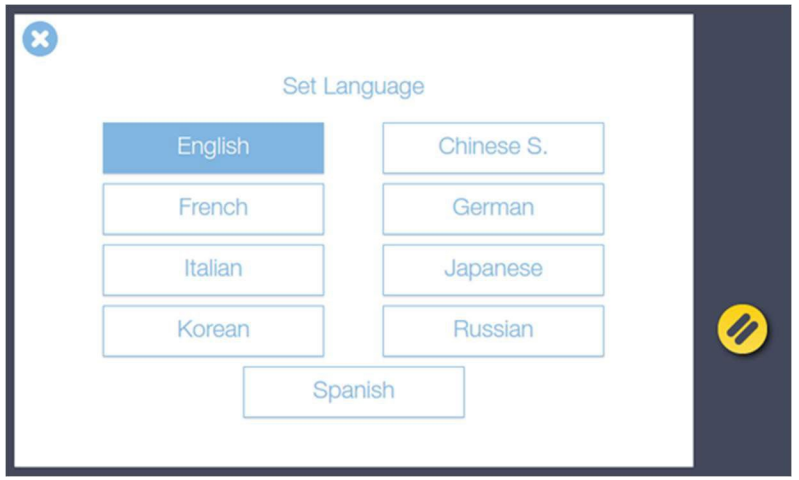
15 言語を選択する

画面とキーボードの言語を選びます。それぞれ異なる言語を設定できます。言語を選択すると、現在の設定が更新されます。

[Settings > System > Options > Language]

［Next >>］で次へ。





スキャナの設置

日付と時刻の設定

16

地域の日付と時刻を設定する

1. 日付を設定します。

   画面の［Date］を押し、数字キーパッドで日付をdd.MM.yyyy（日・月・年）の順に入力します。［Enter］で保存します。



[Settings > System > Options > Regional]

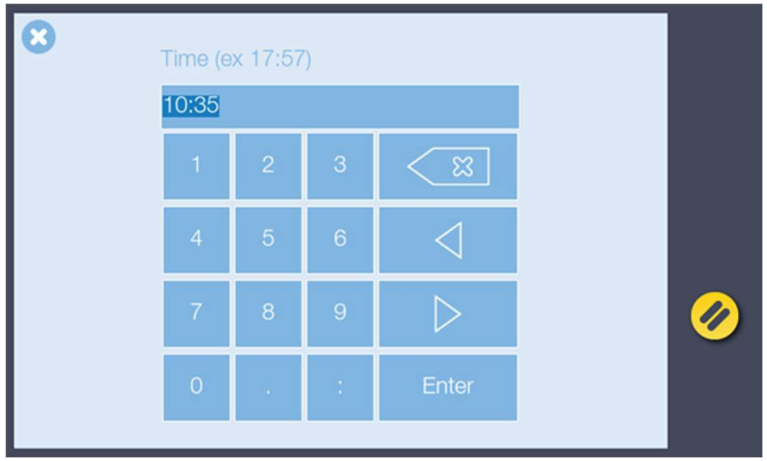


2. 時刻を設定します。

   画面の［Time］を押し、数字キーパッドで24時間表記の時刻を入力します。［Enter］で保存します。



[Settings > System > Options > Regional]



［Next >>］で次へ。

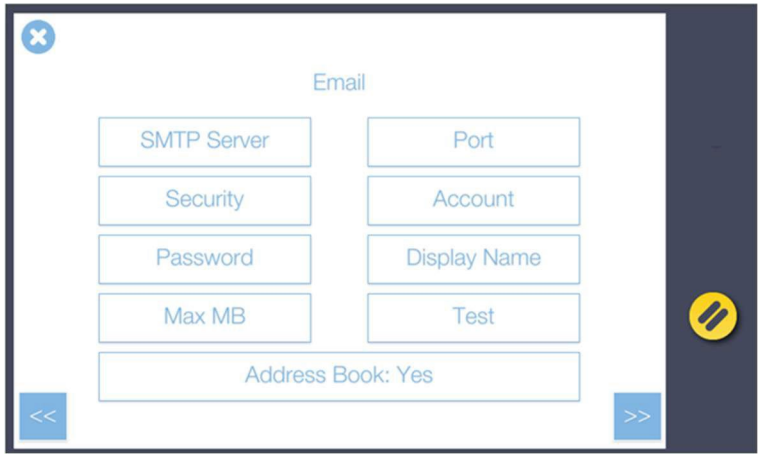
スキャナの設置

メールサーバーの設定

17

メールサーバーの設定

スキャンデータをメールで送るため、次の項目を設定します。
SMTP Server：サーバー名　／　Port：ポート番号
Security：セキュリティ方式
Account／Password：送信用アカウントとパスワード
Display Name：送信者名　／　Max MB：添付容量の上限
Test：設定したアカウントで接続・送信を確認します。
Address Book：［Yes］で送信先を保存し、次回から選択できます。



[Settings > System > Email]

設定値が不明な場合は、メール管理者またはサービス提供元に確認してください。この設定は後から変更できます。

【メールサーバーの認証】認証方式や利用制限はサービスごとに異なります。接続・送信に必要な認証や利用許可の設定は、メール管理者またはサービス提供元に確認のうえ実施してください。

［Next >>］で次へ。

スキャナの設置

プリンタの設定

18a

プリンタの設定

1. ［Setup］を押し、コピーに使用するプリンタを選択・設定します。
2. プリンタのIPアドレスを入力して検出します。各数値の先頭の0は省略できます（例：050は50）。アドレスが不明な場合はIT管理者に確認してください。
3. ［Compensate for the printer margin］を有効にすると、プリンタが印刷できない用紙端の余白を考慮し、元原稿の余白がコピーで重複しないようにします。
4. ［Media Profiles］を押し、用紙プロファイルの作成ウィザードを開始します。

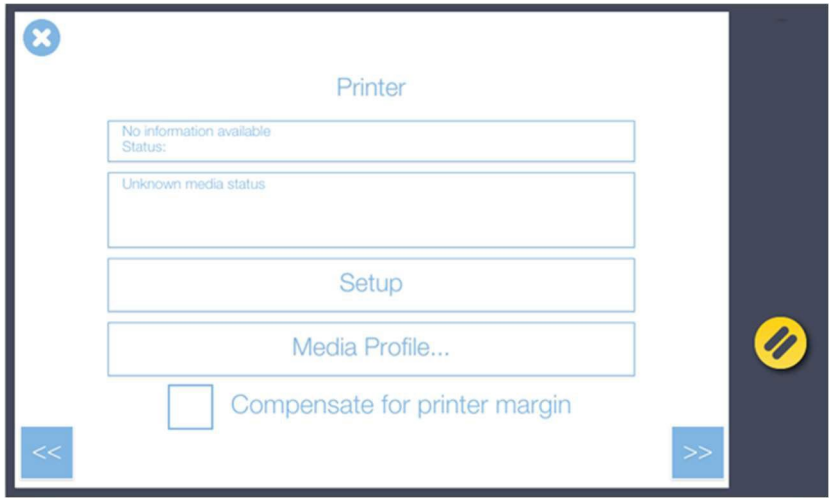
使用する用紙の種類ごとにプロファイルを作成してください。適切なプロファイルでカラーコピーの品質を最適化できます。

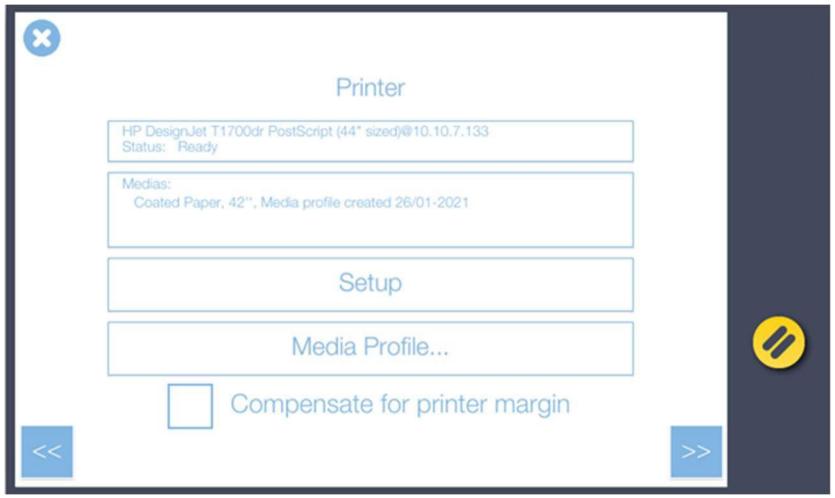
［Next >>］で次へ。

[Settings > System > Printer]

注：Epson製プリンタでは、本体の操作パネルで装填中の用紙種類を選び、スキャナ側でも同じ種類を選択してください。最適なコピー品質を得るには、スキャナのプロファイルとプリンタに装填した用紙を

一致させる必要があります。





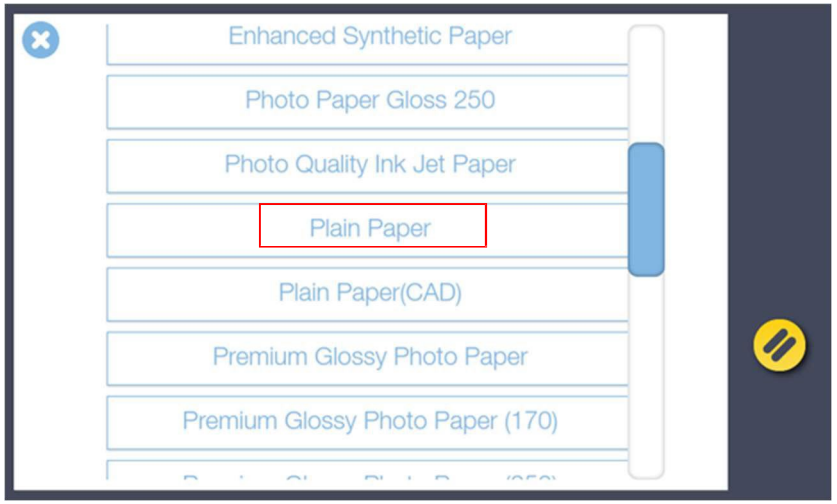
18b

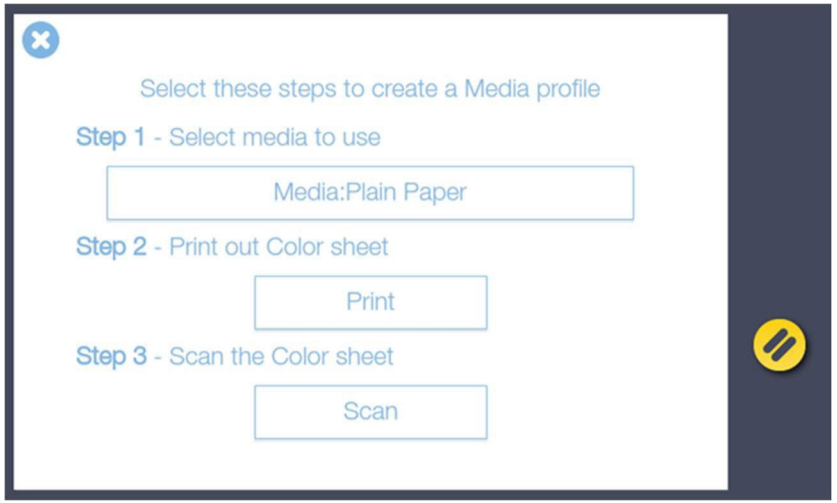
プリンタの用紙プロファイルを作成する

5. 前ページの［Printer］画面で［Media Profiles］を押し、装填中の用紙を選びます（例：Plain Paper）。
6. ［Print］を押してカラー補正用のページを印刷します。プリンタが正常に動作することを確認してください。
7. 印刷した補正ページの黒い矢印をスキャナ中央の基準位置に合わせて置き、［Scan］を押して読み取ります。
8. ［Media Profile Created］と表示されたら［OK］を押します。

コピーに使用する用紙の種類ごとに、新しいプロファイルを作成してください。

注：補正ページが見つからないというメッセージが出た場合は、原稿を置き直し、［Scan］で再試行してください。





スキャナの設置

オンラインでのライセンス認証

19

オンライン認証

使用前にライセンスキーで認証します。有線LAN経由でインターネットに接続する方法が最も簡単です。

1. インターネットに接続できるネットワークへ本体を接続します。
2. ライセンスキー証明書を用意します。キーは証明書のQRコードに含まれています。
3. 証明書をスキャナに置き、緑色のスキャンボタンを押して読み取ります。
4. 証明書で認証できない場合はオフライン認証を選び、ライセンスキーを手入力してください。



スキャナのライセンス認証が完了しました。

スキャナの設置

オフラインでのライセンス認証

20

オフライン認証

本体をインターネットに接続できない場合は、別のPCや機器で手動認証します。ライセンスキーを用意してください。お持ちでない場合は販売店に問い合わせてください。

インターネットに接続できるPCでの操作

www.licenseactivate.com にアクセスします。

#1 スキャナのシリアル番号またはHardware IDを入力します。

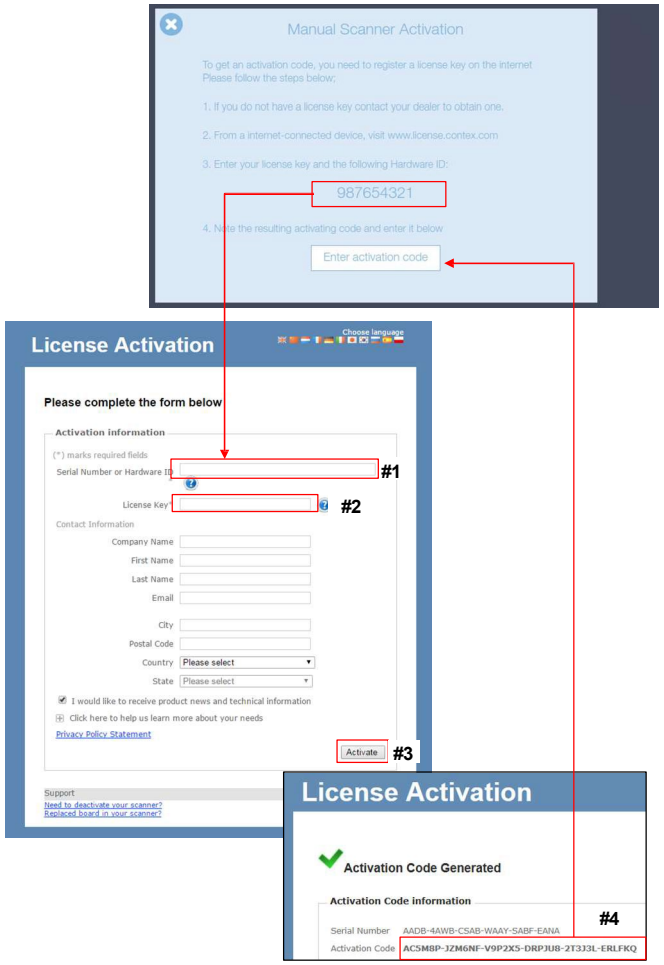
#2 ライセンスキーを入力します。

#3 ［Activate］を押し、生成されたActivation Codeを控えます。

スキャナでの操作

#4 青色のManual Activation画面下部にある［Enter activation code］欄へ、生成したコードを入力します。

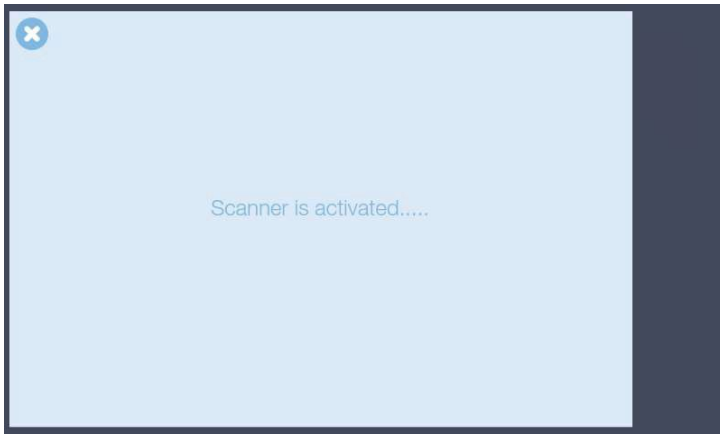
これでスキャナの認証が行われます。

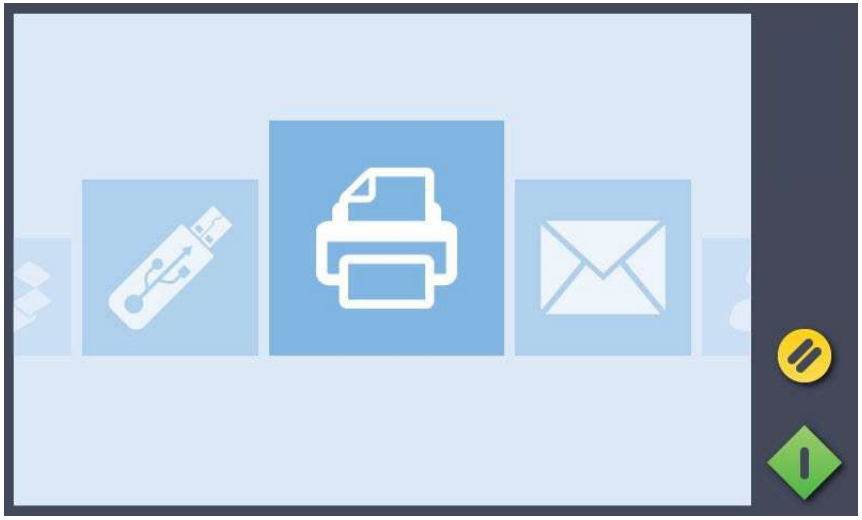


スキャナの設置

21 インストールとライセンス認証の完了

正常にインストールされると［Scanner is activated］と短時間表示され、通常の開始画面に切り替わります。





スキャナの設置

Secure FTPサーバーの設定

22 Secure FTPの設定を入力する

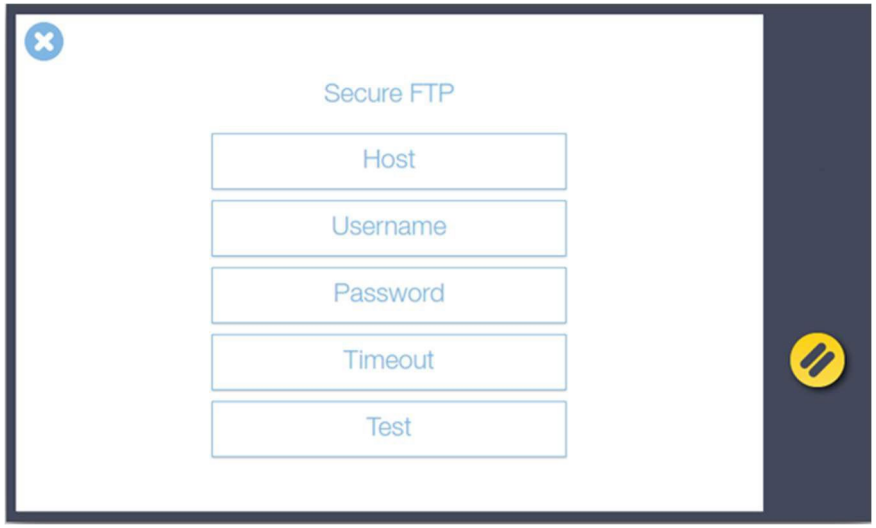
設定アイコンを押し、次の設定画面を開きます。

[Settings > System > Secure FTP]

設定値が不明な場合は、IT管理者に確認してください。

スキャンデータを直接Secure FTPサーバーへ送るには、次の情報を入力します。

1. Host：サーバーのアドレス（例：sftp.example.com）。ポート番号は22固定です。
2. Username／Password：送信先Secure FTPサーバーのユーザー名とパスワード。
3. Timeout：接続のタイムアウト時間（秒）。初期値は10秒です。
4. Test：入力したSecure FTP設定を確認します。



IQ FLEXの機能

機能	用途
設定	本体・ネットワーク・プリンタなどの各種設定を行います。
PC／ユーザー	Contex LINKを使用して、LAN上のPCへ保存します。
メール	設定したメールサーバー経由で送信します。
USBメモリ	本体のUSB端子に接続したUSBメモリへ保存します。
Secure FTP	設定したSFTPサーバーへ送信します。
コピー	設定したプリンタへ出力します。

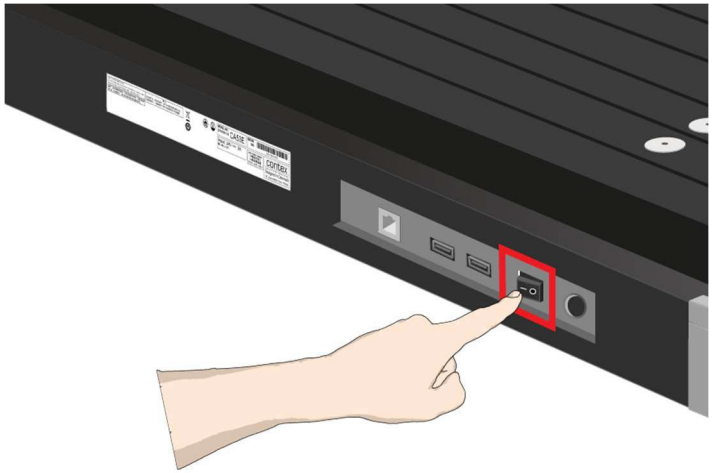
スキャン

電源の入れ方と切り方

主電源スイッチ

主電源スイッチは、スキャナの背面にあります。

- スイッチの左側（「I」側）を押すと、電源が入ります。
- スイッチの右側（「0」側）を押すと、電源が切れます。



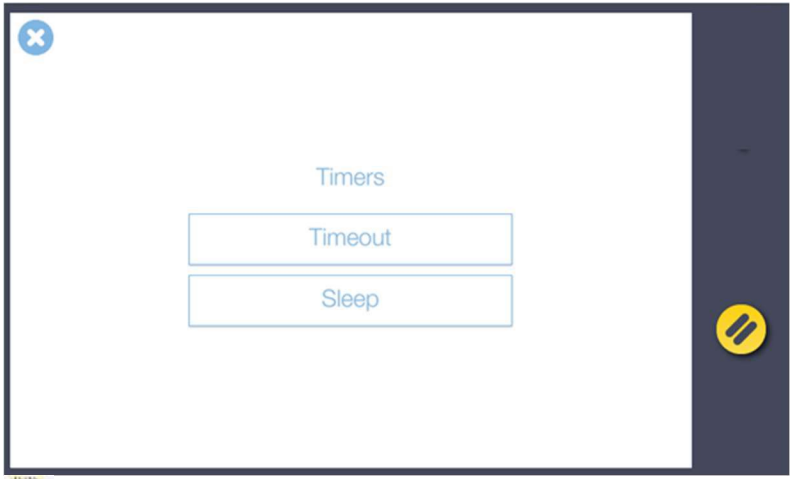
スリープモード

スリープモードは節電状態です。この状態ではスキャンできません。初期設定では、操作しない時間が一定時間続くと自動的にスリープに入ります。業務に合わせて待機時間を変更できます。

注：スリープ機能は無効にできません。設定できる最長時間は60分です。

1. スクロールして設定ボタンを選びます。
2. ［System］→［Options］→［Timers］の順に選びます。
3. ［Sleep］を押して、スリープまでの待機時間を設定します。

注：主電源が入っていれば、タッチスクリーンに触れてスリープを解除できます。



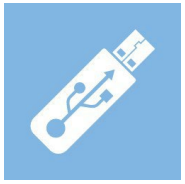
注：Timeoutは節電機能ではありません。一定の無操作時間が経過した際に、画質、形式、カラーモード、読取範囲などを初期値へ戻し、次の利用者に備える設定です。

スキャン

スキャン

基本的な手順

IQ FLEXでは、USBメモリ、メール、SFTPサーバー、PCへスキャンデータを保存・送信できます。次の手順で設定します。

1 原稿を置く	2 保存先を選ぶ	3 ユーザーを選ぶ	4 スキャン設定	5 開始する
				
読み取る面を下にして、位置合わせガイドに沿って置きます。	USBメモリ、メール、PC、SFTPから保存・送信先を選びます。	PC保存ではユーザーを選びます。PINを設定している場合は入力します。	原稿の種類、画質、範囲、ファイル形式を設定します。	緑色の開始ボタンを押してスキャンします。

スキャン

スキャンの準備

23 カバーを開く

カバーを開け、スキャンガラス面を露出させます。



注：ガラス面を清潔に保ち、傷を付ける金属物などから保護してください。

スキャン

標準スキャンモード

24 標準スキャンモード

NORMAL：定形・不定形原稿を、自動サイズ検出または手入力した寸法で読み取ります。正確な用紙寸法の手入力には、別売のNextimageソフトウェアが必要です。

縦向きの原稿は、原稿面を下にし、長辺がガラス面の長辺と平行になるように置きます。A2またはCサイズまで読み取れます。

横向きの原稿は、同じ向きに置いて読み取り後にNextimageで回転するか、

短辺をガラス面の長辺と平行にして左側の定規に合わせ、横向き用の［L］用紙サイズを選びます。大きな横向き原稿はオーバーサイズウィザードを使用します。後述の「オーバーサイズ原稿のセット」を参照してください。



注：スキャンを開始する前に、カバーを閉じてください。

オーバーサイズスキャンモード

25 オーバーサイズ読取

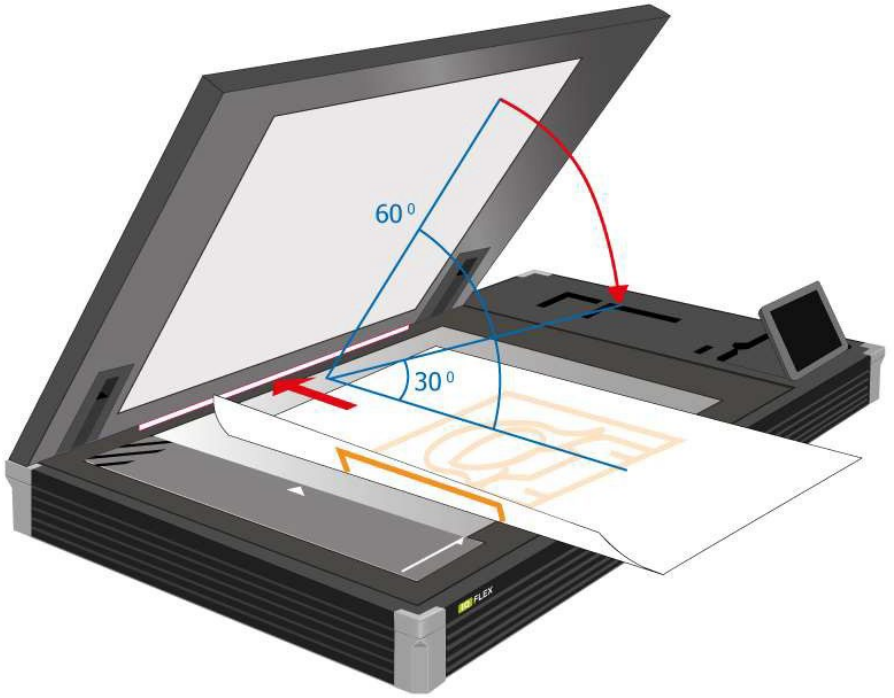
OVERSIZE：最大A1までの原稿を対象とし、原稿の位置を変えて2回に分けて読み取ります。

詳細は後述の手順を参照してください。カバーには次の3つの開位置があります。
30°：オーバーサイズ読取用（原稿を背面に出せます）。
60°：標準・本スキャン時の原稿セット用。直立：カバーの取り外しや高さ調整用。

オーバーサイズの入力寸法／用紙寸法の条件

- 原稿は長方形であること。
- 用紙幅は、原稿の幅±12 mm以内。
- 用紙長は、原稿の長さ±12 mm以内。

画面のオーバーサイズウィザードが、原稿を置く位置を案内します。



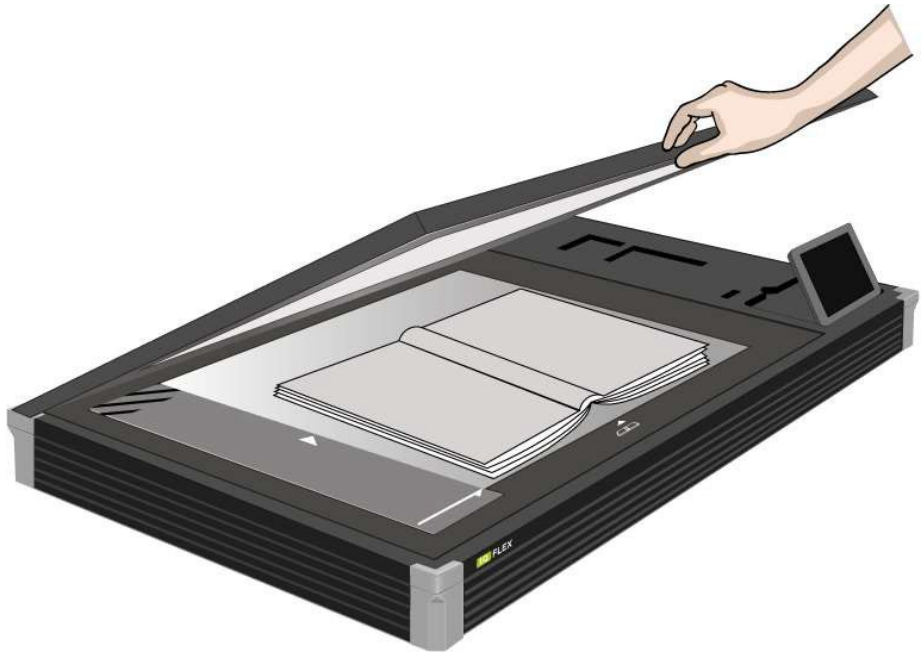
注：原稿面を下にしてガラス面に置き、カバーを閉じてから読み取ってください。

Bookスキャンモード

26 Bookスキャンモード

BOOK：本やカタログ用です。本体または別売のNextimageで本スキャンを選択します。

本のサイズ自動検出には別売のNextimageが必要です。詳細は後述の「本のセット」を参照してください。



注：本の原稿面を下にし、背表紙の位置を本のマークに合わせて置きます。カバーを閉じてから読み取ってください。

スキャン

厚い原稿用のカバー調整

27 カバーの高さを調整する

厚い本や原稿では、カバーを持ち上げて水平を保ち、外光がスキャンエリアに入らないようにします。

背面のヒンジ付近の左右角を持って、カバーを持ち上げます。いったん直立まで開いてから、高さを調整して下ろすこともできます。



注：読み取り後は重い原稿を取り除き、カバーを通常の用紙用の高さに戻してください。

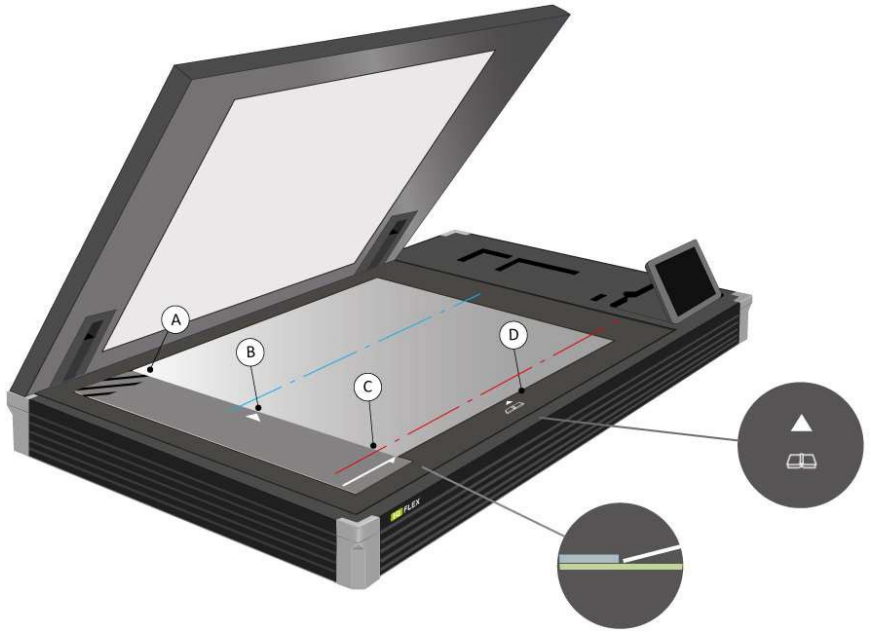
原稿のセット

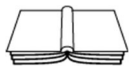
28 位置合わせの基準

位置A：オーバーサイズスキャン（ウィザードによる2回の読み取り）。原稿の長辺を定規に合わせます。最大841×594 mm（A1）に対応します。Nextimageで操作する場合は、別売の同ソフトウェアが必要です。詳細は該当する節を参照してください。

位置B：中央合わせの標準読取と自動サイズ検出。原稿の中心を定規の白い三角マークに合わせます。定形サイズの選択や寸法の手入力もできます。

位置C：隅合わせの標準読取。サイズを用紙一覧から選ぶか手入力し、原稿の端をガラス面左側の位置合わせガイドと長い白矢印に合わせます。別売のNextimageが必要です。





位置D：本の読み取り。本の背表紙を、本のマークとガイド上の長い白矢印に合わせます。

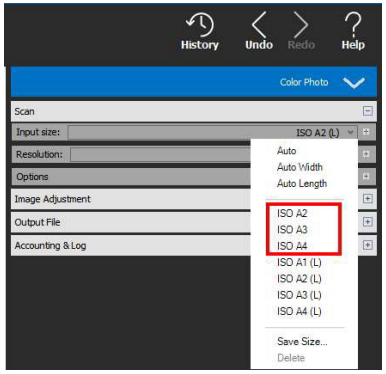
用紙サイズと位置合わせガイド

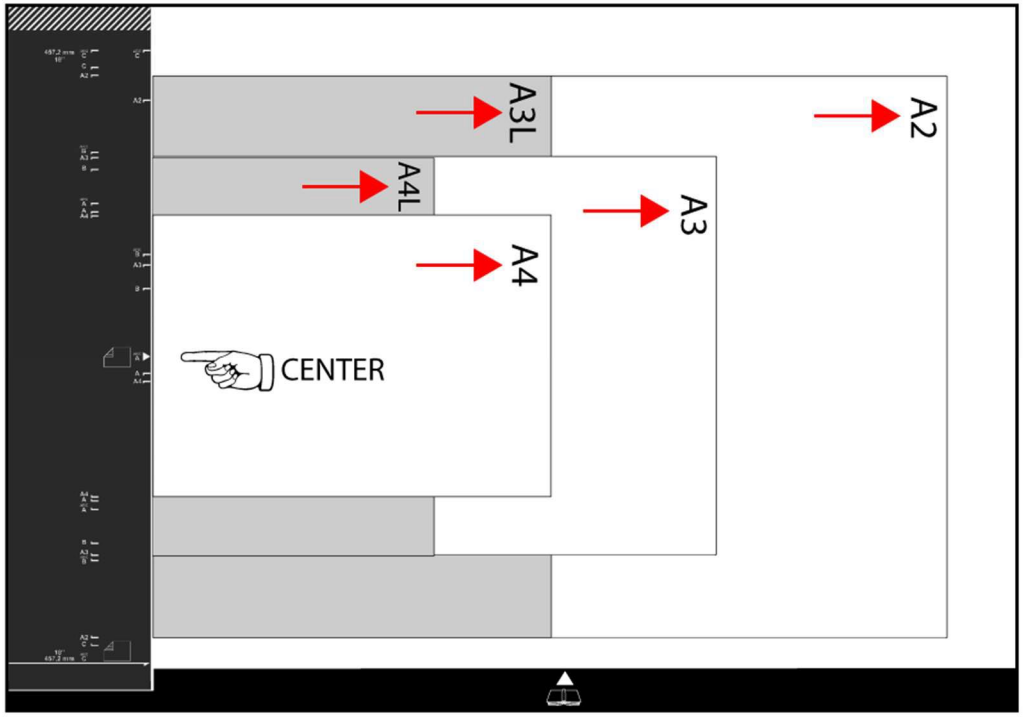
29 原稿ガイド

目盛りは、スキャナの正面ではなく左側から、長手方向を見て読みます。

ガイドのマークは縦向き原稿を基準にしています。
A4～A2／A～Cの原稿面を下にし、長辺が左右方向になるよう、中央マークに合わせて置きます。
Nextimageでは下図の赤枠内の設定を使用します。

CADなどの横向き原稿は、縦向きで読み取り後にソフトウェアで回転できます。あるいは1つ大きい用紙サイズの目盛りに長辺を合わせます。例：A4（L）はA3の目盛り内に置き、NextimageでA4（L）を選びます。

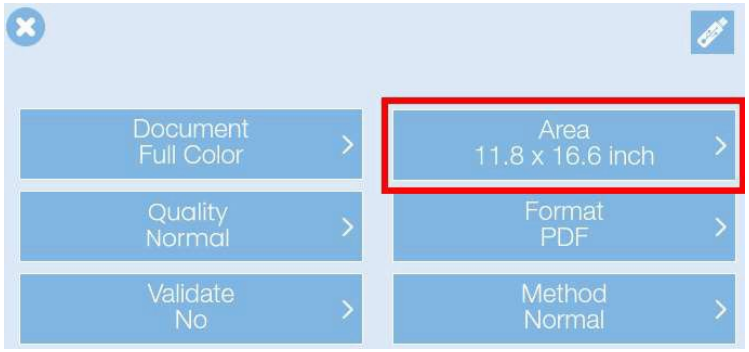




注：A2（L）とA1（L）は、長辺をガイドに合わせ、ウィザードで2回に分けて読み取ります。「オーバーサイズスキャン」を参照してください。

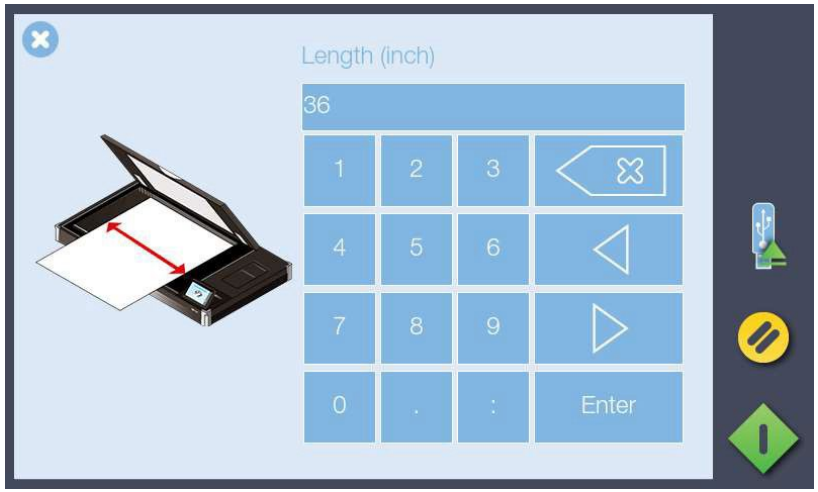
30 オーバーサイズの設定（本体）

［Settings > Area > Manual］を選びます。





［Width］で幅、［Length］で長さを入力します。右図は長さの入力画面です。



読み取りを開始すると、ウィザードが操作を案内します。

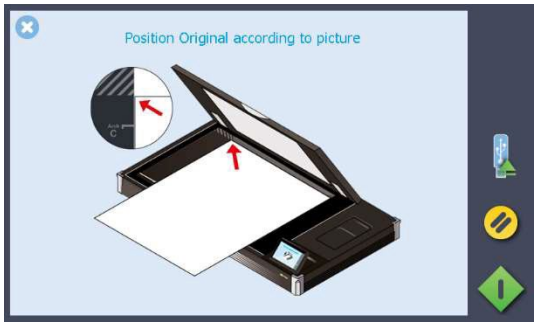
注：オーバーサイズの入力寸法／用紙寸法の条件

- 原稿は長方形であること。
- 用紙幅は、原稿の幅±12 mm以内。
- 用紙長は、原稿の長さ±12 mm以内。

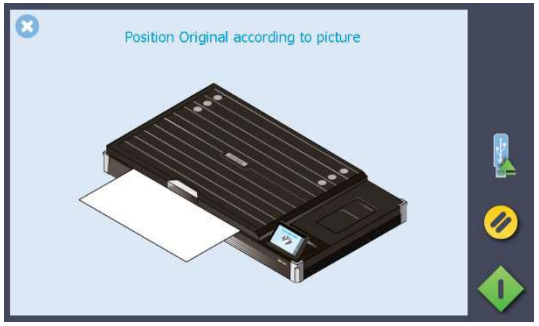
31

オーバーサイズウィザード（本体）

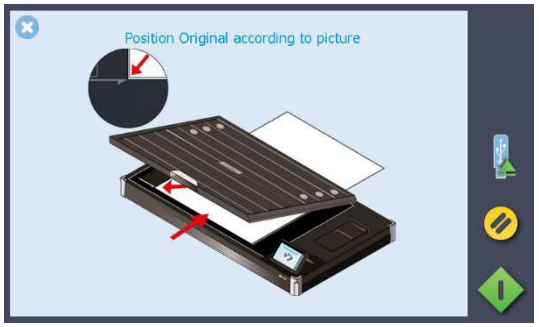
1. 原稿の長辺をガイドに沿わせ、上側の角を斜線部の下端に合わせます（拡大図）。下部は手前にはみ出して構いません。



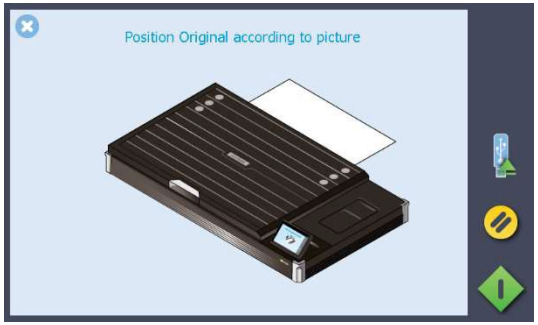
2. カバーを閉じ、PCのウィザードまたは本体画面のスキャンボタンを押して、1回目の読み取りを開始します。



3. カバーを30°まで開き、原稿をヒンジ側へ移動します。左下の角を手前の長い矢印に合わせ、反対側を本体背面へ出します。



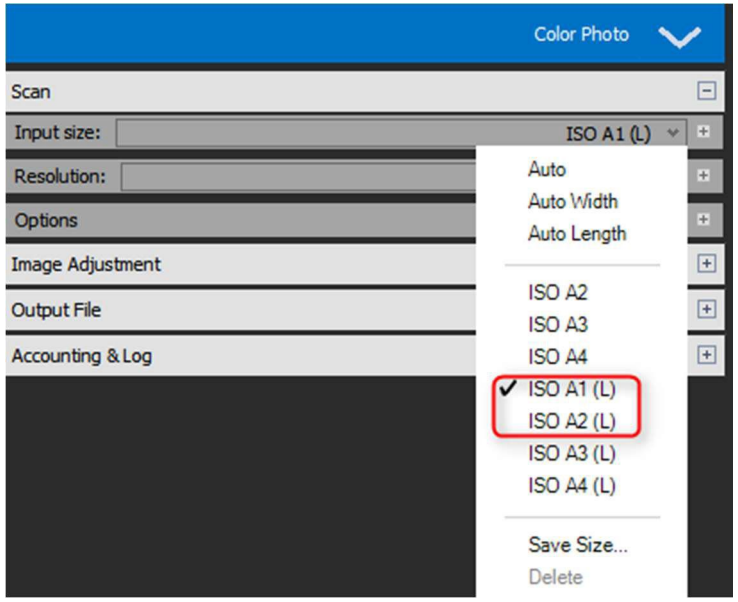
4. カバーを閉じてスキャンボタンを押し、読み取りを完了します。



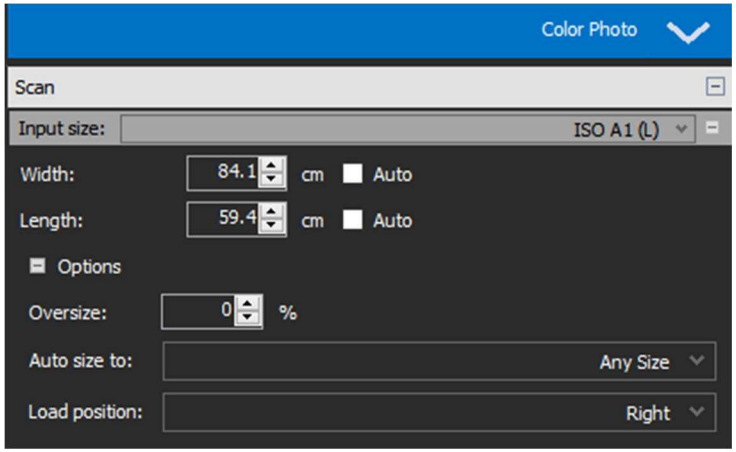
オーバーサイズ原稿の読み取り

32 オーバーサイズの設定（Nextimage）

入力サイズで［L］用紙、または長さ24インチを超える寸法を指定すると、オーバーサイズ読取が有効になります。開始時にNextimageのウィザードが表示され、操作を案内します。



オーバーサイズモードでは、通常の原稿セット位置の設定は使用されません。



注：オーバーサイズの入力寸法／用紙寸法の条件

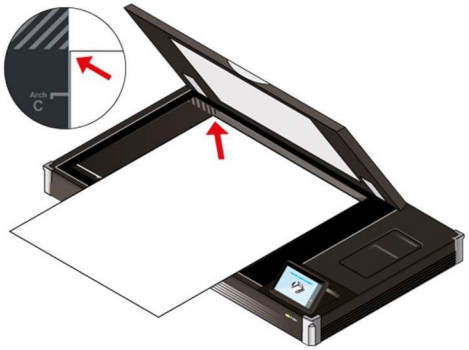
- 原稿は長方形であること。
- 用紙幅は、原稿の幅±12 mm以内。
- 用紙長は、原稿の長さ±12 mm以内。

オーバーサイズ原稿のセット

33

オーバーサイズウィザード（Nextimage）

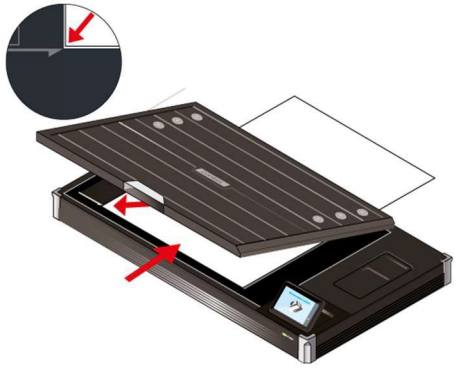
1. 原稿の長辺をガイドに沿わせ、上側の角を斜線部の下端に合わせます（拡大図）。下部は手前にはみ出して構いません。



2. カバーを閉じ、PCのウィザードまたは本体画面のスキャンボタンを押して、1回目の読み取りを開始します。



3. カバーを30°まで開き、原稿をヒンジ側へ移動します。左下の角を手前の長い矢印に合わせ、反対側を本体背面へ出します。

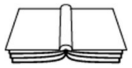


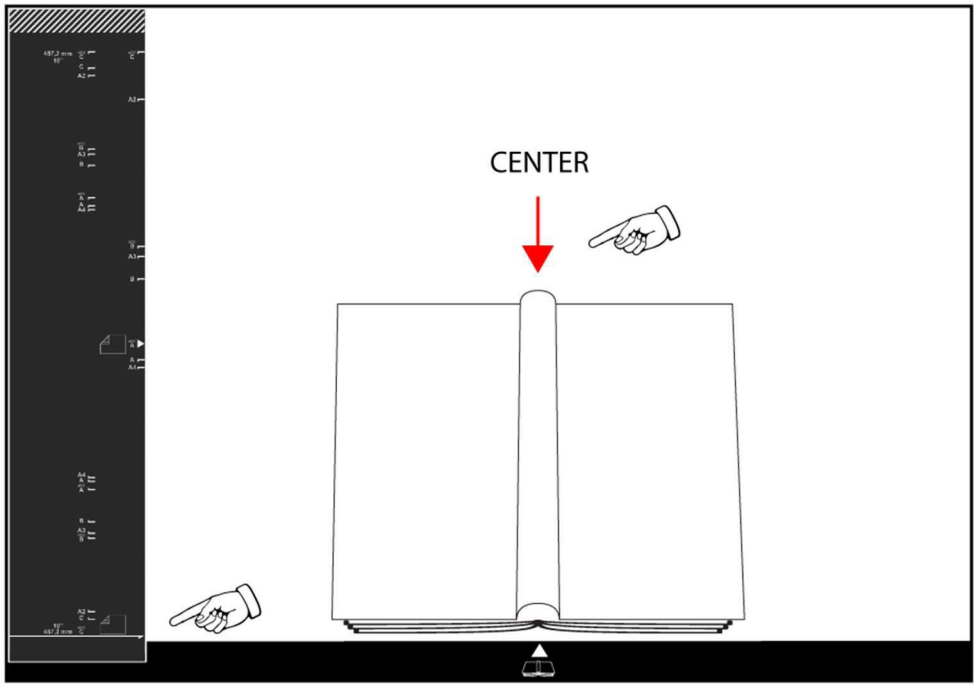
4. カバーを閉じてスキャンボタンを押し、読み取りを完了します。



本のセット

34 本をセットする位置

 本の原稿面を下にし、背表紙を白い三角マークの中心に、本の下端を用紙ガイドの長い白矢印に合わせます。

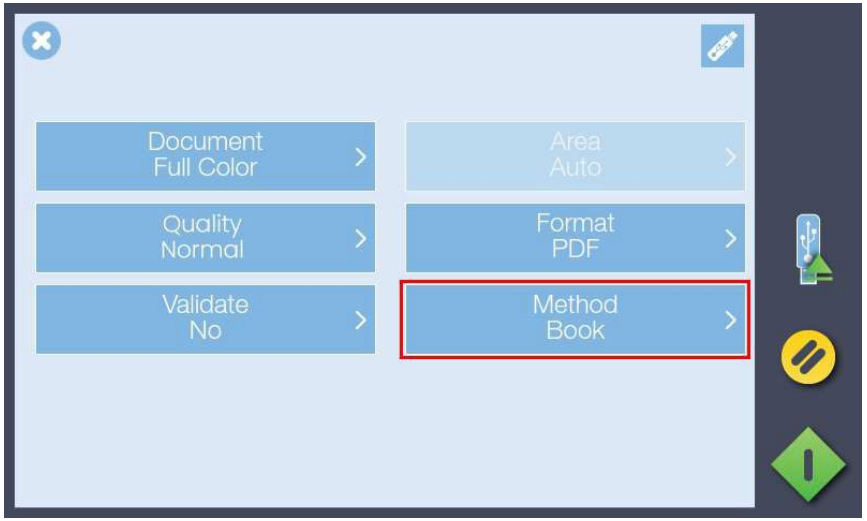


注：厚い本ではヒンジ部を持ち上げてからカバーを下ろします。白い背景板を原稿と平行に保ち、外光による画質低下を防ぎます。

本体だけで本をスキャンする

35 本体だけで本をスキャンする

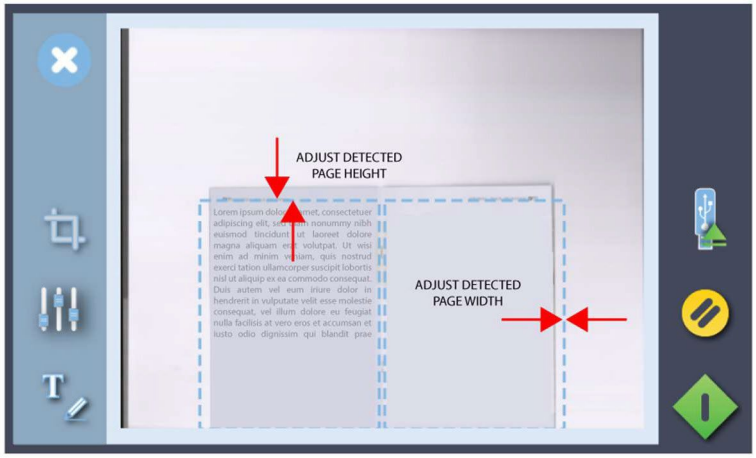
スキャン設定画面で［Method］を押し、［Book］を選びます。



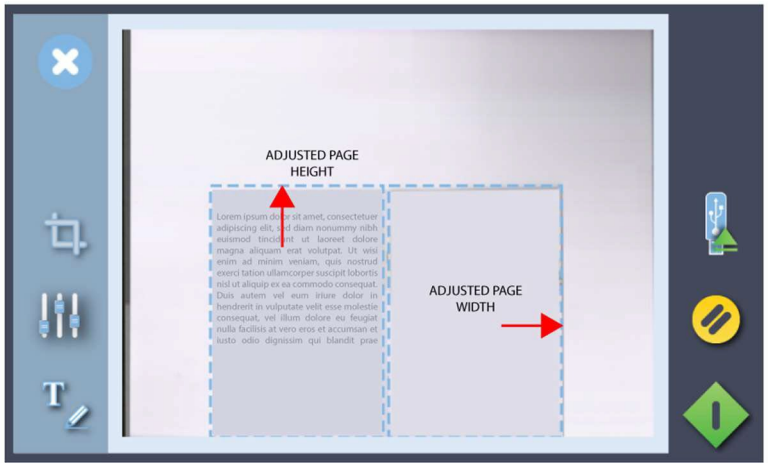
カバーを下ろし、スキャンボタンを押します。

注：厚い本ではヒンジ部を持ち上げてからカバーを下ろします。白い背景板を原稿と平行に保ち、外光による画質低下を防ぎます。

スキャンデータは、指定したUSBメモリやネットワーク上の保存先へ保存されます。



必要に応じて本の周囲の余白を押し、調整します。

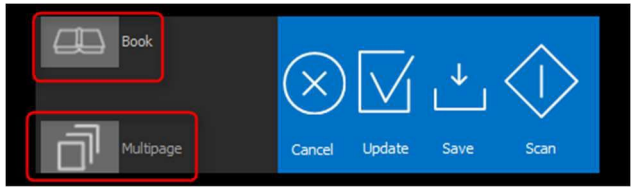


緑色のボタンで完了します。

Nextimageで本をスキャンする

36 Nextimageで本をスキャンする

Nextimageで本のアイコンを押します。背景が灰色に変わります。必要に応じて［Multipage］を選びます。

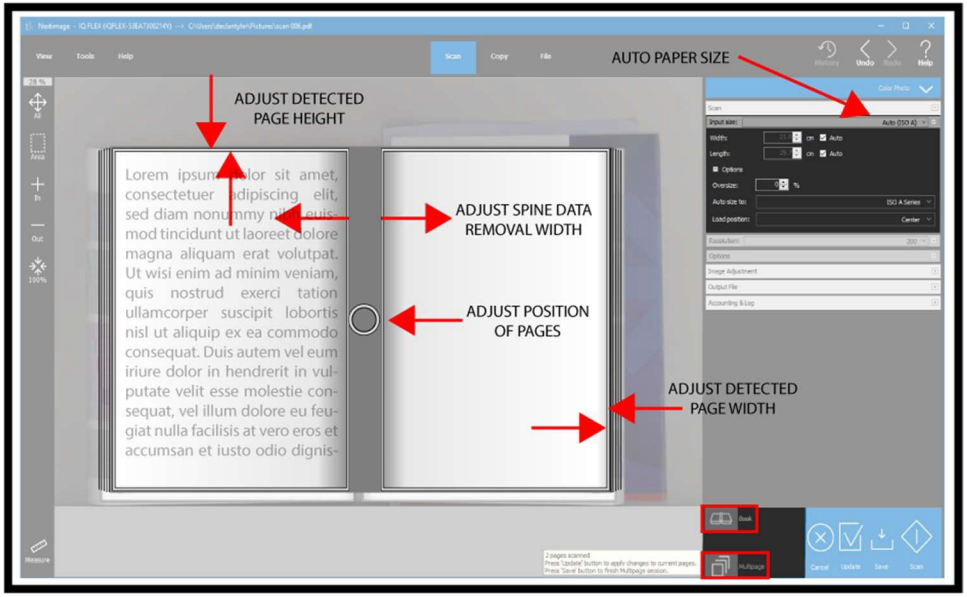


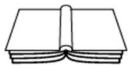
本の原稿面を下にし、背表紙をスキャン面下側の白矢印と本のマークに合わせます。Nextimageの入力サイズを［Auto］にし、カバーを下ろして読み取ります。

Nextimageが見開き全体のサイズを自動検出します。必要に応じて切り抜き範囲、背の除去幅、位置を調整し、［Update］を押します。複数ページの読み取りを終えるには［Save］を押します。

［Multipage］を選ぶと、1回の読み取りがAcrobat上で2ページとして表示されます。

Nextimage使用中は、本体画面での操作は不要です。本体には［Scanner used by IP xxx.xxx.xxx.xxx］と表示されます。





注：厚い本ではヒンジ部を持ち上げてからカバーを下ろし、白い背景板を原稿と平行に保ってください。外光の侵入による画質低下を防ぎます。

37 カバーを閉じる

原稿の位置や向きを動かさないよう、カバーを静かに閉じます。



注：厚い原稿では、カバーの高さ調整が必要になることがあります。前述の「カバーの高さ調整」を参照してください。

入力サイズに関する補足

入力サイズは読み取り範囲を決めます。使用するアプリケーションの入力サイズ画面で指定します。

入力サイズは次の3つの方法で設定できます。

1. **自動検出：原稿の端を検出し、入力サイズを自動で決定します。**
2. **定形サイズ：スキャン面左側のガイドにある目盛りで原稿に合う規格を確認し、アプリケーションで同じサイズを選びます。**
3. **手入力：不定形原稿は、スキャン面の定規で幅を測り、入力サイズ画面へ入力します。長さも実測値を入力するか、自動長さ検出を選べます。**

USBメモリに保存する

38 USBメモリに保存する

FAT32形式の4～128 GBのUSBメモリに対応します。

- 本体上部のUSB端子にUSBメモリを差し込みます。
- スクロールメニューでUSBメモリを選びます。
- 設定を選び、スキャンボタンを押します。標準の保存先はDCIMフォルダです。
- ［Saving File］の表示が消えるまで、USBメモリを抜かないでください。



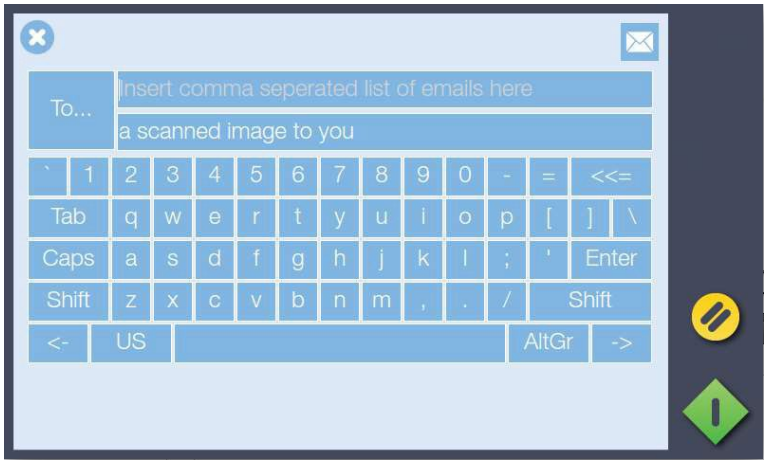


メールで送信する

39 メールで送信する

スキャンデータをメールアドレスへ送信します。

1. メールの項目を選びます。
2. 画面のキーボードで送信先アドレスを入力します。
3. 設定を選び、スキャンボタンを押します。



注：事前に送信メールサーバーを設定してください。サーバーへの接続・送信に必要な認証や利用許可の設定は、メール管理者またはサービス提供元に確認のうえ実施してください。「メールサーバーの設定」も参照してください。



40 SFTPで送信する

スキャンデータをSecure FTPサーバーへ送信します。

1. 設定を選び、スキャンボタンを押します。

注：事前にSecure FTPを設定してください。「インストール」の「Secure FTPサーバーの設定」を参照してください。





厚い原稿のスキャン

41 厚手の原稿

段ボール、フォームボード、Gatorboardなど、厚い材料に印刷・貼り付けた書類や図面を読み取ることができます。

- 厚さ38 mm（1.5インチ）までの原稿は、カバーを閉じた状態で読み取れます。
- さらに厚い原稿は、ガラス面に置き、カバーを完全に開いた状態で読み取ることもできます。



注：厚い原稿ではヒンジ部を持ち上げてからカバーを下ろし、白い背景板を原稿と平行に保ちます。外光による画質低下を防いでください。

スキャン

PCへのスキャン保存

PCにContex LINKクライアントをインストールして正しく設定してください。PCとスキャナは、同じLANに接続する必要があります。

Contex LINKを設定すると、スキャナがLAN上のPCを検出し、ユーザー一覧に追加します。自分のPCに保存できるほか、許可されたPINが分かれば他の利用者のPCにも送信でき、プロジェクト内での共有に利用できます。

注：設定方法は「Contex LINKスキャンクライアント」を参照してください。

PCへ保存する

1. 本体でユーザーアイコンを選び、一覧から自分または送信先のユーザーを選びます。
2. 要求された場合はPINを入力します。PINはContex LINKで利用者が設定した場合にのみ必要です。
3. スキャン設定を行い、読み取ります。
4. PC上で保存したデータを確認するには、

- システムトレイのContex LINKアイコンを押し、クライアント画面を開きます。
- 画面上部のフォルダアイコンを押すと、PC／ユーザー宛てに送られたファイルを確認できます。

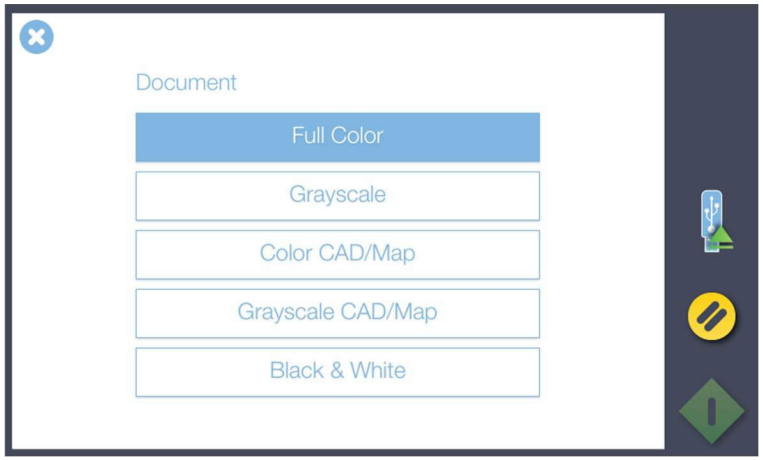
スキャン

ファイル保存のスキャン設定

設定項目	内容
原稿	原稿の種類を選びます。 Full Color：カラー写真・ポスター Grayscale：グレー階調の写真・画像 Color CAD/Map：カラーの線画・地図 Grayscale CAD/Map：グレー階調の線画・地図 Black & White：白黒の線画・地図
読取範囲	Auto：原稿サイズを自動検出します。 All：スキャン面の全幅を読み取ります。 Manual：読み取り幅と長さを入力します。
画質	Low：150 dpi、速度優先 Normal：300 dpi、一般用途 High：600 dpi、高画質（低速） Ultra-High：1200 dpi、最高画質（最も低速・大容量）
ファイル形式	TIF／JPG／PDF／PDF/Aを選びます。 画質設定は百分率で指定します（初期値80）。
プレビュー	保存前に画像を確認・編集します。 YES：プレビューを開きます。 NO：プレビューを開きません。 SELECT：編集対象を選択します。 CROP：緑枠で範囲を指定し、緑色のボタンで確定します。 DRAW：線やマークを描き込みます。 TEXT：文字を追加します。 ADJUST：明るさを調整します。
読取方法	Normal：標準／オーバーサイズスキャン Book：本スキャン



メニューで原稿の色、読取範囲、画質、形式、プレビューの各スキャン設定を変更できます。



ファイル保存時の原稿種類：Full Color（選択中）、Grayscale、Color CAD/Map、Grayscale CAD/Map、Black & White。

スキャン

カラーの確認と編集（線の追加）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

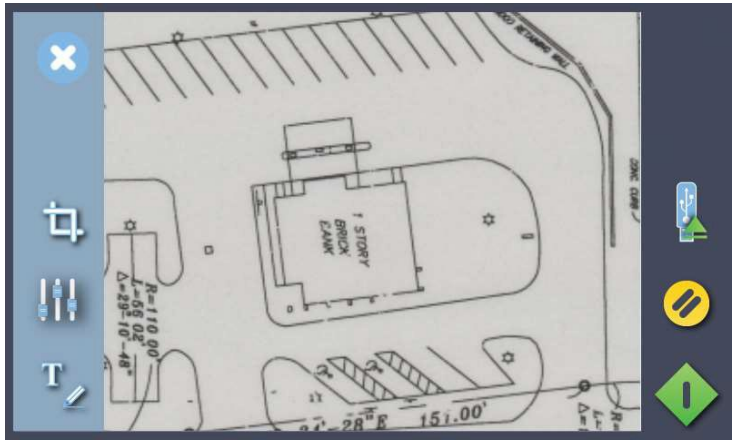
保存前にプレビューを開き、切り抜きや明るさを調整できます。必要に応じて線や文字注釈を追加します。

- 次へ進む／編集を保存
- 切り抜き枠の外側を削除
- 白・黒レベルで明るさを調整
- フリーハンドの線を追加
- 文字注釈を追加
- 確認画面へ戻る
- 文字や線を選択して変更・削除
- 編集をキャンセル

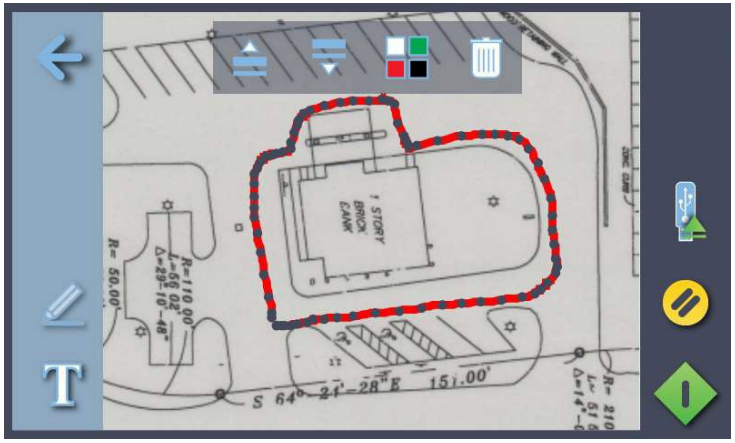
編集対象を選択したときの操作

線を太くする　線を細くする　文字を拡大　文字を縮小　文字・色を変更　削除

注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。確認画面を離れた後は、元に戻せません。



上図：キャンセル、切り抜き、調整、注釈の操作がある確認画面。



戻る、フリーハンド線（選択中）、文字の操作がある編集画面。

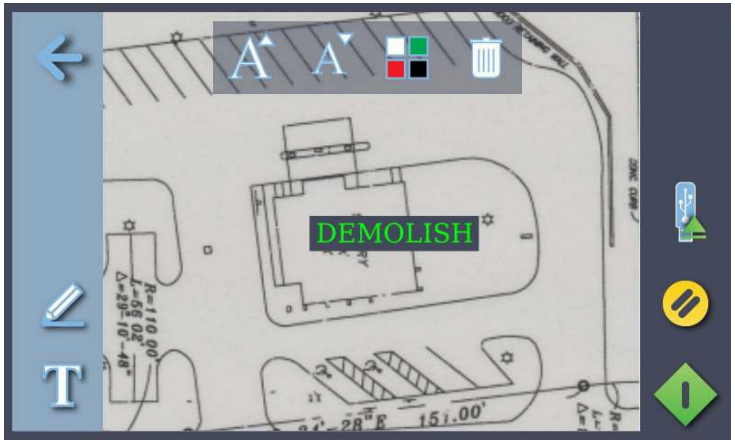
スキャン

カラーの確認と編集（文字の追加）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

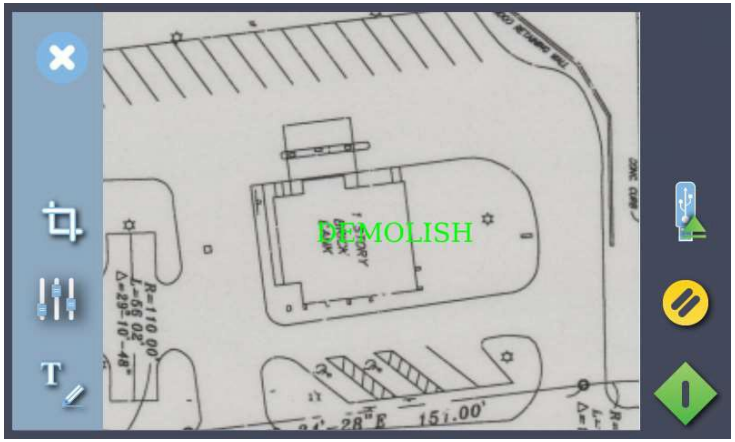
保存前にプレビューを開き、画像の切り抜きや明るさの調整を行えます。必要に応じてフリーハンドの線や文字注釈も追加できます。

緑色のボタンを押すまでは、注釈や編集内容は仮の状態です。



上図：戻る、フリーハンド線、文字（選択中）の注釈画面。

注釈を押すと選択でき、移動、サイズ変更、色変更、削除ができます。



文字注釈を追加した確認画面。キャンセル、切り抜き、調整、注釈を操作できます。

注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。確認画面を離れた後は、元に戻せません。

カラーの確認と編集（明るさの変更）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

保存前にプレビューを開き、画像の切り抜きや明るさの調整を行えます。必要に応じてフリーハンドの線や文字注釈も追加できます。

注釈の色は変わりません。



明るさ調整をキャンセル

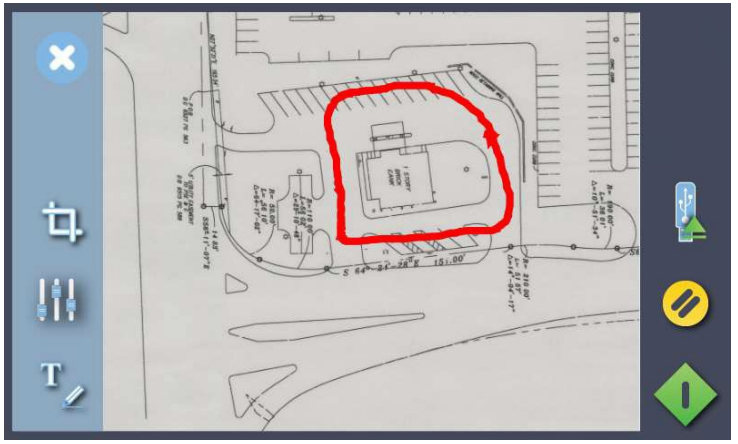
上のスライダーを下げると、白に近い色が白になります。

下のスライダーを上げると、黒に近い色が黒になります。

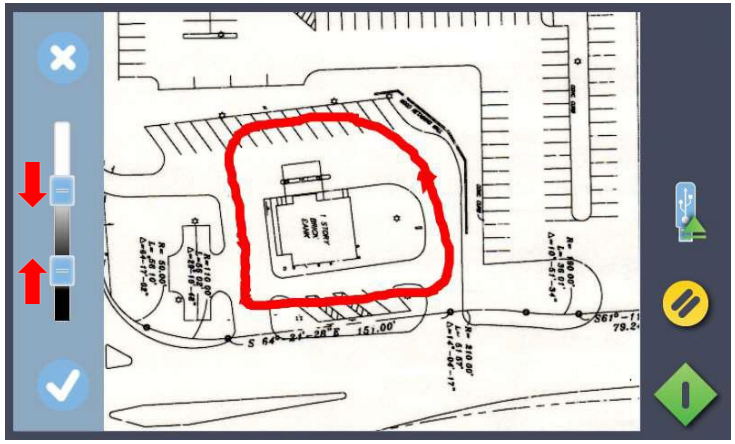
明るさの変更を確定し、確認画面へ戻る



注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。確認画面を離れた後は、元に戻せません。



上図：調整前の注釈付き画像。



明るさを調整した画面。

グレーの確認と編集（明るさの変更）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

注釈のグレー階調は変わりません。



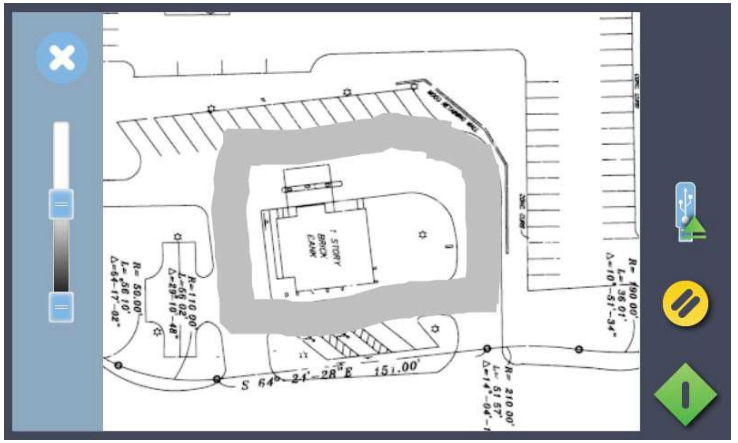
明るさ調整をキャンセル

上のスライダーを下げると、白に近いグレーが白になります。

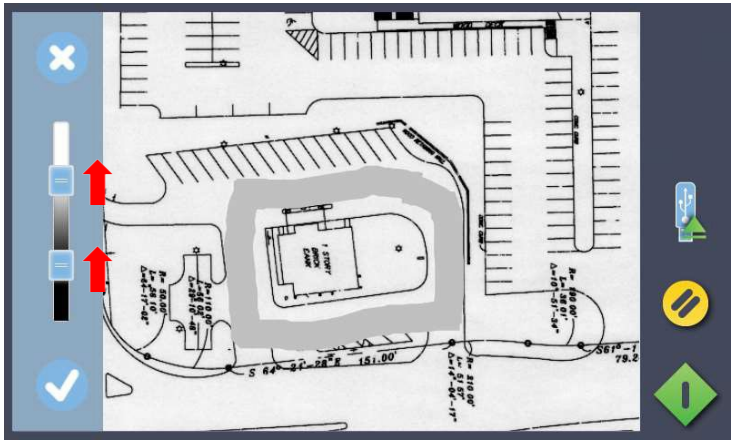
下のスライダーを上げると、黒に近いグレーが黒になります。

明るさの変更を確定し、確認画面へ戻る

注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。確認画面を離れた後は、元に戻せません。



上図：初期状態の明るさ調整画面。



線と背景を濃くした調整画面。

スキャン

白黒の確認と編集（線を濃くする）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

注釈の黒レベルは変わりません。

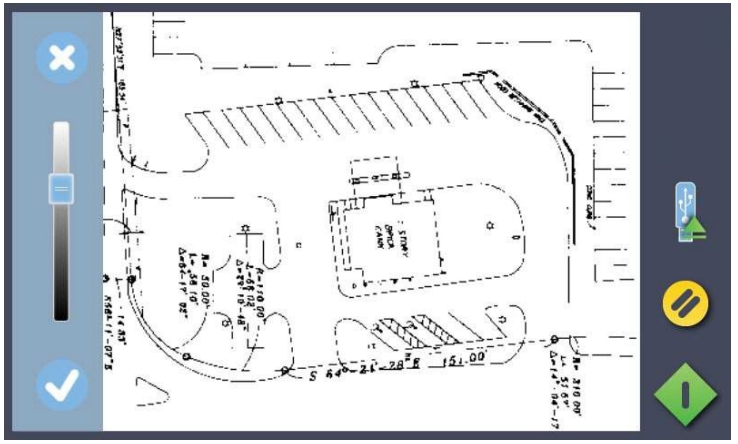


明るさ調整をキャンセル

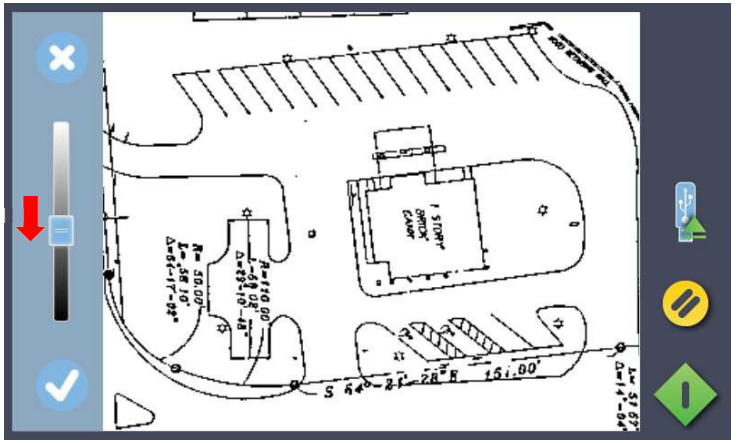
スライダーを下げると、黒い線がより多く表示されます。
白い部分は変わりません。

明るさの変更を確定し、確認画面へ戻る

注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。
確認画面を離れた後は、元に戻せません。



上図：黒線が薄い状態の調整画面。



黒線を濃くした調整画面。

スキャン

Contex LINKスキャンクライアント

Contex LINKを使用すると、複数の利用者で1台のスキャナを共有できます。利用者ごとにプロファイルを作成し、自分の保存先を登録できます。

Contex LINKはPCにインストールするクライアントソフトウェアです。設定後は、スキャナがLAN上のPCを検出し、PCへのスキャンデータ転送を行います。 設定アイコンから氏名・メールアドレス・言語を設定してください。必要な場合は、本体での認証用PINを設定します（任意）。

注記：画面にはクラウドサービスのアイコンが表示されますが、現在、Contex LINKからクラウドサービスへの接続・保存は利用できません。

42 Contex LINKの導入

本体での操作

1. 本体の設定アイコンから［About］を開きます。
［Network Address］で有線LANのIPアドレスを確認します。

PCでの操作

Webブラウザを使い、本体またはインターネットからContex LINKをダウンロードします。

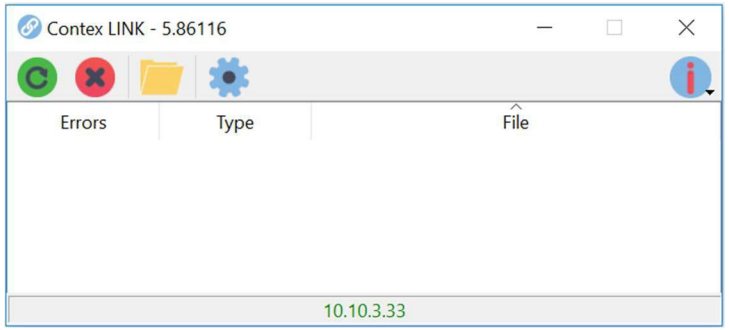
1. http://＜本体のIPアドレス＞ または http://www.contex.com/IQ-FLEX を開き、青いリンクアイコンまたは［click here to install］を押します。
http://www.contex.com/IQ-FLEX
2. ソフトウェアをインストールします。
3. PCのプログラム一覧とシステムトレイに、Contex LINKアイコンが表示されます。
4. アイコンを  押して起動します。

有線LANのIPアドレスを確認

本体の設定アイコンから［About］を開き、［Network Address］に表示された有線LANのIPアドレスを確認します。

表示例：10.10.3.37

IPアドレスは接続環境によって異なります。PCのブラウザで、確認したアドレスを開いてください。



コピー

コピー

コピーの基本的な手順

IQ FLEXでコピーするには、次の手順を行います。

1 原稿を置く	2 コピーを選ぶ	3 コピー設定	4 開始する
			
読み取る面を下にして、位置合わせガイドに沿って置きます。	プリンタと用紙プロファイルを設定し、コピー機能を選びます。	原稿の種類、画質、用紙、倍率、部数を設定します。	緑色の開始ボタンを押してコピーします。

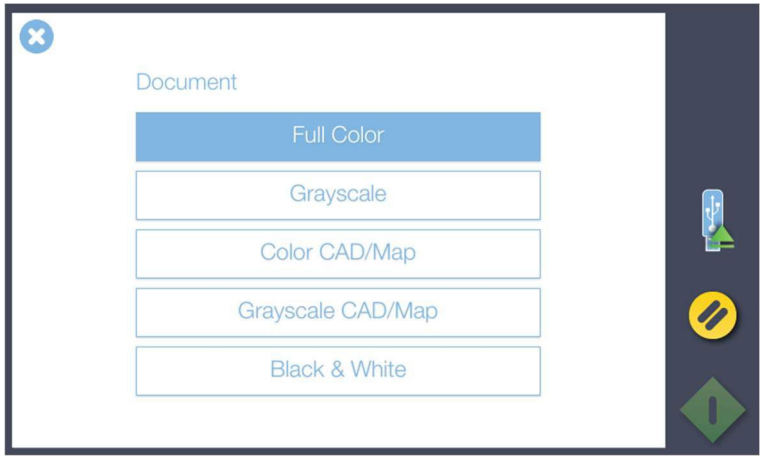
コピー

コピー設定

設定項目	内容
原稿	原稿の種類を選びます。 Full Color：カラー写真・ポスター Grayscale：グレー階調の写真・画像 Color CAD/Map：カラーの線画・地図 Grayscale CAD/Map：グレー階調の線画・地図 Black & White：白黒の線画・地図
画質	Draft：150 dpi、速度優先 Standard：300 dpi、一般用途 High：600 dpi、高画質（低速）
読取範囲	Auto：原稿サイズを自動検出します。 All：スキャン面の全幅を読み取ります。 Manual：読み取り幅と長さを入力します。
拡大・縮小	None：等倍 Paper：用紙サイズに合わせる Scale：倍率を指定
用紙	プリンタに装填した用紙を選びます。一致する項目がない場合は用紙プロファイルを作成します。「プリンタの用紙プロファイルを作成する」を参照してください。
部数	出力する部数を指定します。
プレビュー	コピー前に画像を確認・編集します。 YES：プレビューを開きます。 NO：プレビューを開きません。 SELECT：編集対象を選択します。 CROP：緑枠で範囲を指定し、緑色のボタンで確定します。 DRAW：線やマークを描き込みます。 TEXT：文字を追加します。 ADJUST：明るさを調整します。



上図：原稿の色、コピー画質、読取範囲、拡大縮小、用紙種類、部数、プレビューを設定するメニュー。



原稿種類：Full Color（選択中）、Grayscale、Color CAD/Map、Grayscale CAD/Map、Black & White。

コピー

カラーの確認と編集（線の追加）

プレビュー・調整・切り抜き・注釈

コピー前にプレビューを開き、切り抜きや明るさを調整できます。必要に応じて線や文字注釈を追加します。


編集を確定してコピー


切り抜き枠の外側を削除


白・黒レベルで明るさを調整


フリーハンドの線を追加


文字注釈を追加


確認画面へ戻る


文字や線を選択して変更・削除


編集をキャンセル

編集対象を選択したときの操作


線を太くする


線を細くする

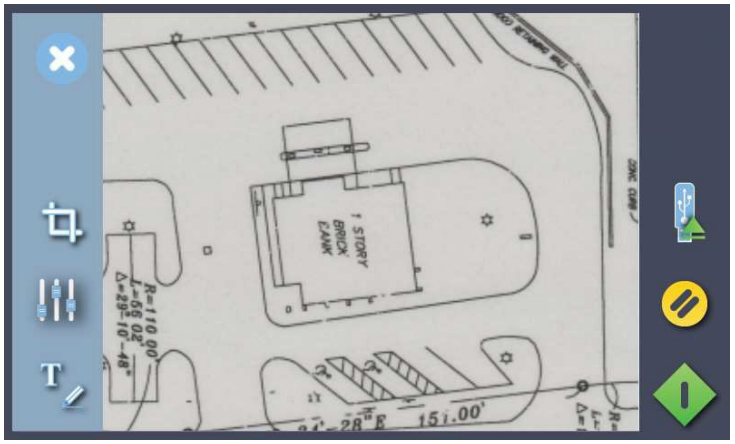

文字を拡大


文字を縮小

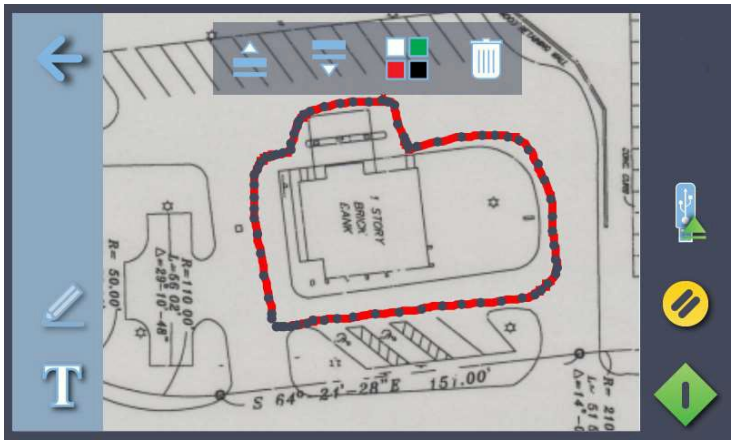

文字・色を変更


削除


注：緑色のボタンを押すと、編集内容が画像ファイルに確定保存されます。確認画面を離れた後は、元に戻せません。



上図：キャンセル、切り抜き、調整、注釈の操作がある確認画面。



戻る、フリーハンド線（選択中）、文字の操作がある編集画面。

各種設定



用途に合わせて各種設定を変更できます。設定アイコンを押すと、System、Scanner、Printer、Aboutの各グループが表示されます。

グループ	設定項目	内容
System （システム）	Network	本体をLANに接続します。DHCPによる自動取得を推奨します。固定IPアドレスはネットワーク管理者に確認してください。現在のIPアドレスも確認できます。
	Email	送信メールサーバーを設定します。必要な値と認証については、メール管理者またはサービス提供元に確認してください。「メールサーバーの設定」も参照してください。
	Secure FTP	送信先のSecure FTPサーバーを設定します。必要な情報はシステム管理者に確認してください。
	Options > Language	画面とキーボードの言語を設定します。それぞれ別の言語を選べます。
	Options > Timers	Timeout：初期設定に戻すまでの無操作時間。Sleep：スリープまでの待機時間（最長60分）。
	Options > Regional	日付、時刻、単位（インチ／mm）、用紙規格（ANSI、ISO、ISO B、ARCH）を設定します。
	Options > Buttons	スクロールメニューに表示するアイコンを選びます。
	Options > Settings	設定を保存するか、初期値に戻します。
	Password	本体へのアクセス用パスワードを設定します。不要な場合は空欄にします。
	Update	更新を検索し、利用可能な場合はインターネット経由でシステムソフトウェアを更新します。
Scanner （スキャナ）	Calibrate	補正ウィザードを開始します。「スキャナの補正」を参照してください。
	Service	保守用ログをメール送信またはUSBメモリに保存します。
	Upgrade	ライセンス証明書を読み取り、スキャナを認証します。
Printer （プリンタ）	Printer	プリンタの機種、IPアドレス、用紙、プロファイル、使用状態を表示します。
	Setup	IPアドレスを入力し、LAN上のプリンタを検出・接続します。
	Media Profile	色補正用ページを印刷し、本体で読み取って用紙プロファイルを作成します。
	余白の補正	プリンタの印刷できない領域を考慮し、余白の増加やコピー倍率への影響を防ぎます。
About （機器情報）	機器情報	ファームウェア、ソフトウェアのバージョン、ネットワークアドレスを表示します。

Nextimage操作

WIDEsystem

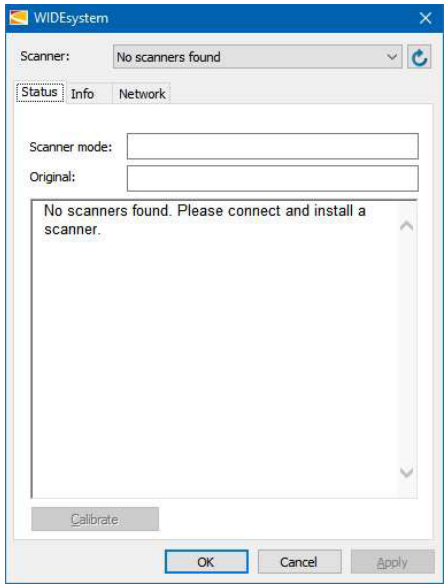
LANケーブルを接続し、本体の電源を入れます。WIDEsystemをインストールすると、Windowsのシステムトレイにアイコンが表示されます。

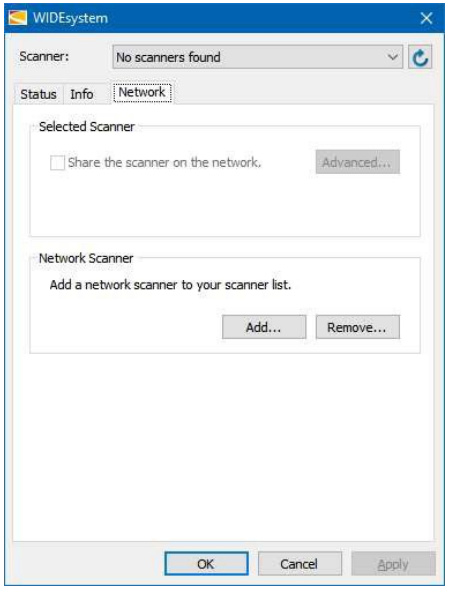
1. アイコンを右クリックし、［Restore WIDEsystem］を選びます。
2. ［Status］に［No scanners found］と表示された場合は、［Network］の［Add...］を押して検出ウィザードを開きます。
3. 一覧から本体を選び、［Next］を押します。接続後は［Status］と［Info］で本体情報を確認できます。

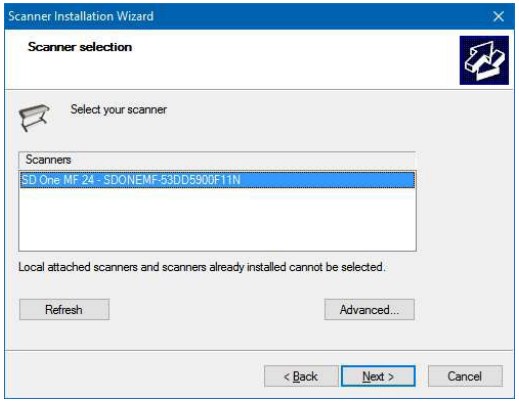
Nextimage

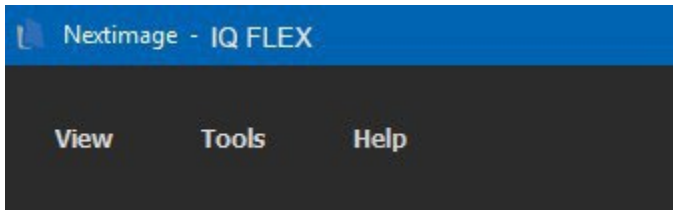
アイコンまたはプログラムメニューからNextimageを起動します。検出された本体の機器名が画面左上に表示されます。

注：初回起動時はメールアドレスと会社名の入力を求められます。









管理者コンソール

本体と同じネットワーク上のWebブラウザから管理者コンソールに接続し、遠隔設定や動作ログの確認ができます。

ブラウザのアドレス欄に、本体のIPアドレスを入力します。

例：http://＜本体のIPアドレス＞/admin

[Settings > About]

管理者コンソールには、次の機能があります。

HOME：本体のシリアル番号と
ファームウェアのバージョンを表示します。

EMAIL：メールのサーバー、ポート、セキュリティ、
アカウント、パスワード、表示名、最大添付容量を設定します。

CONTACTS：登録済みのメール連絡先を表示し、
新しい連絡先を追加できます。

DATE/TIME：本体に保存された日付と時刻を
表示・修正します。

SIZES：用紙規格と
計測単位を表示・設定します。

LANGUAGE：画面とキーボードの言語を
それぞれ選択します。

TIMERS：設定を初期値へ戻すまでの時間と
スリープに入るまでの時間を設定します。

SYSTEM：リセット、再起動、パスワード、ホスト名の設定
（サービス担当者専用）。

LOGS：動作ログ（サービス担当者専用）。

ACCESS：タッチスクリーン操作を無効／有効にします。
利用者が設定するパスワードが必要です。

メンテナンス

スキャナのメンテナンス

最適な性能を維持するため、次の2種類の基本的なメンテナンスを行います。

1. **クリーニング**
   清掃：次節で内部のスキャンエリアの清掃方法を説明します。清掃頻度は使用頻度と原稿によって異なります。新聞や古い青焼き図面を扱う場合は、冊子や新しい図面より頻繁な清掃が必要です。結果が良くない場合は清掃してください。「スキャンエリアの清掃」を参照してください。
2. **補正**
   清掃しても画質が改善しない場合は、補正を行います。カラーと白黒の精度を調整します。補正シートを置いてウィザードを実行してください。事前に本体を清掃します。詳細は「スキャナの補正」を参照してください。
3. **摩耗部品の交換**
   画面に警告が出た場合や、部品の摩耗が画質に影響する場合は交換します。交換可能な部品は次のとおりです。

- 白い背景板。

  詳細は「白い背景板の交換」を参照してください。

スキャンエリアの清掃

43 スキャナの電源を切り、電源アダプタを外す

1. 本体の電源スイッチを右側のOFFにします。
2. 電源アダプタのプラグを抜くか、接続元の電源を切ります。



ガラス面の清掃

44 スキャンガラスの清掃

画質が良くない場合はスキャンエリアを清掃してください。小さなほこりでも画像に筋が入る原因になります。

スキャンエリアを清掃する

カバーを開け、次の手順を行います。

1. 糸くずの出ない布と、拭き筋が残らない中性のガラスクリーナーを使用します。
2. 別の清潔で乾いた布（メンテナンスキット付属品など）で、水分を完全に拭き取ります。

注意：研磨剤、アセトン、ベンゼン、またはこれらを含む液体を使用しないでください。ガラス面や本体に液体を直接吹き付けないでください。



白い背景板の交換

45 白い背景板を交換する

長期間または高頻度の使用により、白い背景板が摩耗・変色することがあります。交換用は消耗品として販売店から購入できます。

背景板は17個のキーホール状の固定部で取り付けられています。まずカバーを開きます。

1. 両手で背景板を持ち、約5 mm上に持ち上げ、
   固定ピンを穴の位置に合わせます。
2. 手前に引いて取り外します。ガラス面へ落としたり、傷を付けたりしないでください。
3. 取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

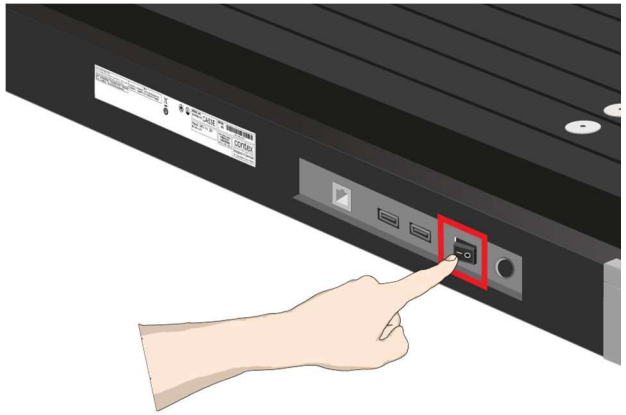


注意：作業前に、厚紙や紙でスキャンガラスを保護することを推奨します。

スキャナ補正の準備

46 スキャナの電源を入れる

背面の電源スイッチを左側に切り替え、電源を入れます。

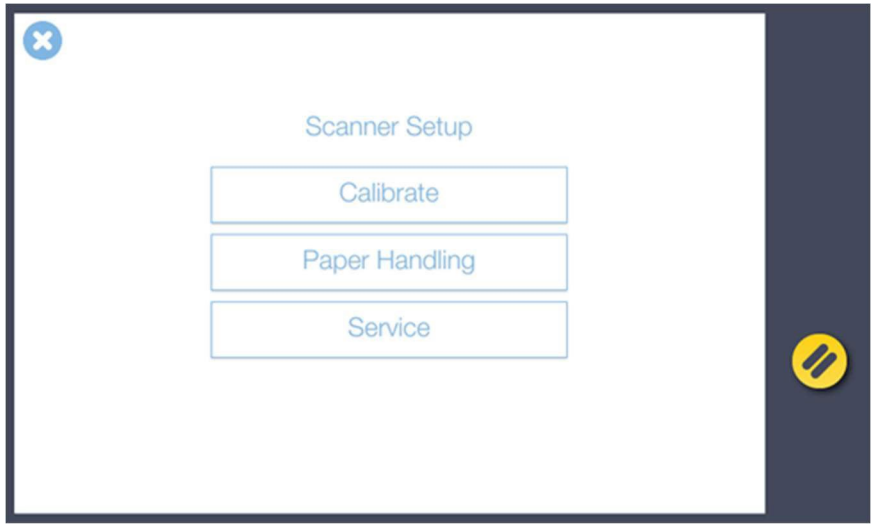


47 補正ウィザードを開始する

スキャンガラスが汚れている場合は清掃してください。補正シート全体を均一に読み取れる状態にします。

設定を開きます。

[Settings > Scanner > Calibrate]

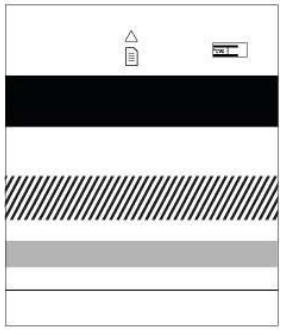


スキャナの補正

48 補正シートを置く

ウィザードの指示に従い、付属の補正シートを置きます。

印刷面を下にし、シート中央の矢印を本体の中央マークに合わせます。カバーを閉じます。



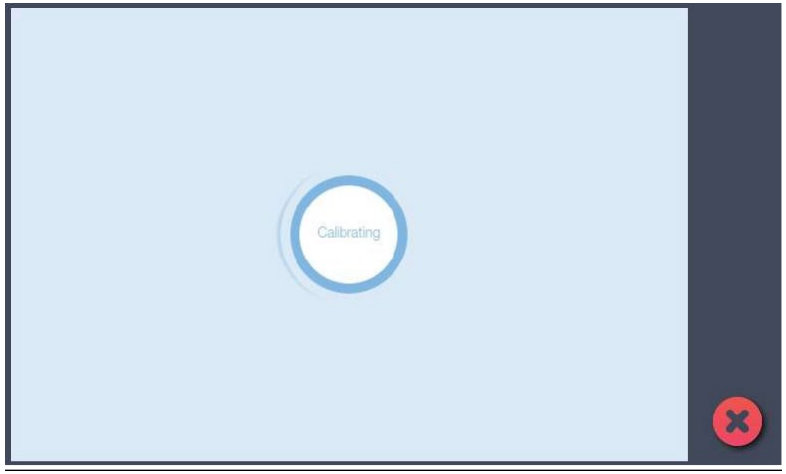


[Next]で次へ進みます。

49 プログラムによる補正

白黒とカラーの値を補正します。シートは複数回読み取られます。
終了すると、ウィザードに完了が表示されます。

1. 補正シートを取り出します。
2. 補正シートを保護カバーに戻し、保管用フォルダに入れます。
3. 乾燥した、光の直接当たらない場所に保管してください。



メンテナンス

本体ソフトウェアの更新

本体ソフトウェアの更新は、インターネット経由で提供されます。自動または手動で更新できます。

自動更新

- 初めて更新が提供されると、更新登録を求めるメッセージが表示されます。
- 登録後は、以降の更新が自動で配信されます。
- 更新が利用可能になると通知され、その場で適用するか、都合のよいときまで待つかを選べます。

手動更新

本体画面から手動更新することもできます。［Settings > System > Update］を開きます。

Contex LINKクライアントの更新

1. PCをインターネットに接続します。
2. PCでContex LINKを起動します。
3. 設定アイコンを押します。
4. ［Update］が有効な場合は押して、ダウンロードとインストールのウィザードを開始します。
5. 画面の指示に従ってください。

注：Contex LINKは http://www.contex.com/LINK からもインストールできます。http://www.contex.com/LINK

Contex LINKの更新：［Update］を押します。

注記：画面にはクラウドサービスのアイコンが表示されますが、現在、Contex LINKからクラウドサービスへの接続・保存は利用できません。

スキャナのトラブル対処

よくある問題の対処方法を説明します。該当する症状があれば、保守を依頼する前に記載の対処を試してください。

技術サービス

次の場合は、サービス提供元へ技術サポートを依頼してください。

- 画面に表示された対処を行っても改善しない。
- 問題や対処方法が、このガイドに記載されていない。
- 問題が起きているのに、画面にエラーが表示されない。

注：連絡先が不明な場合は、メーカーのWebサイトを確認してください。

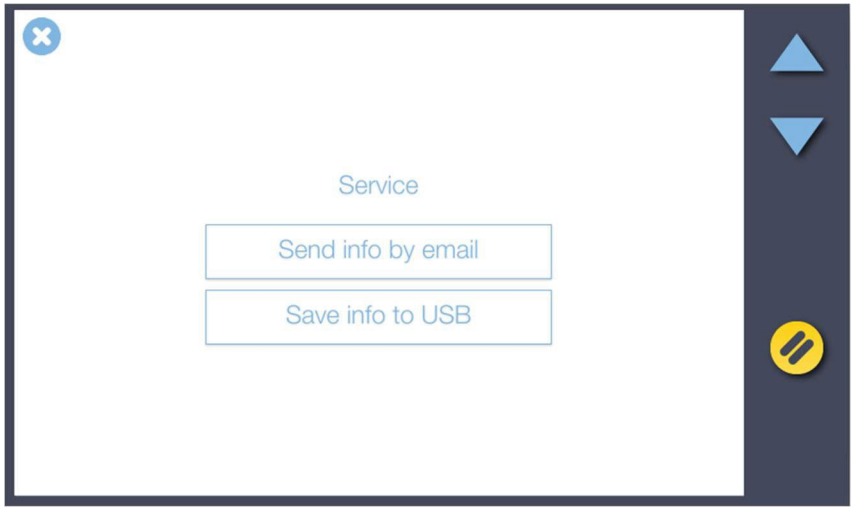
迅速な解決のため、連絡前にできるだけ多くの情報を用意してください。

1. 本体のモデル名とシリアル番号を控えます。番号はカバー内側のラベルに記載されています。カバーを開けて確認します。
2. ファームウェアとソフトウェアのバージョンを控えます。操作画面が動作する場合は［About］を開きます。
3. PCでContex LINKを開き、画面上部のバージョン番号を控えます。
4. 本体のIPアドレスを控えます。遠隔サポートに役立ちます。［Settings］→［About］で確認できます。
5. 本体の重要な動作情報を含むログを提供すると、問題の早期解決に役立ちます。

ログを出力するには、設定アイコンから［Scanner］→［Service］を開きます。

ログの保存方法または送信方法を選びます。

- ［Send info by email］でサービス提供元に送信します。事前にメールサーバーを設定し、本体が正常に動作している必要があります。詳細は「インストール」を参照してください。
- ［Save info to USB］でUSBメモリへ保存します。本体上部のUSB端子にメモリを差し込んでください。



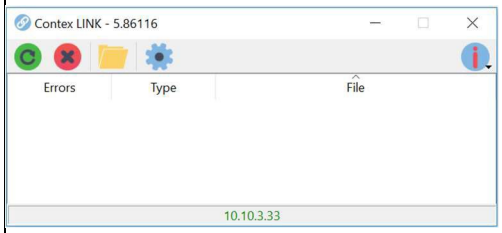
ログを送信または保存します。サービス担当者が原因を調べる際に利用します。

トラブル対処

インストールに関する問題

症状	考えられる原因と対処
補正中にエラーメッセージが出る	補正ウィザードの実行中に表示されることがあります。 1. 主な原因はガラス面の汚れです。スキャンエリアを清掃して再起動し、「スキャナの補正」の手順を実行してください。 2. 清掃後も改善しない場合は、光路に紙片などの異物がある可能性があります。小さな異物でも補正に影響するため、スキャンエリアから取り除いてください。 3. 改善しない場合は、技術サービス提供元へ連絡してください。
本体のユーザー一覧に自分が表示されない	ユーザー一覧に自分が見つからない場合は、次を確認してください。 1. PCにContex LINKをインストールし、利用者情報が正しく設定されていることを確認します。「Contex LINKスキャンクライアント」を参照してください。 2. 本体を再起動し、LAN上の利用者を再検出します。 3. 改善しない場合はPCのContex LINKを更新し、再試行します。「Contex LINKクライアントの更新」を参照してください。

操作に関する問題

症状	考えられる原因と対処
スキャンしたファイルが見つからない	PCへの保存を選んだのに、スキャンデータが見つからない場合。 1. Contex LINKが正常に動作していれば、次の方法で確認できます。 a. PC保存：Contex LINK画面上部のフォルダアイコンを押して、保存先を開きます。 2. 転送に失敗したファイルは、Contex LINKのエラーログに表示されます。PCでContex LINKを開いて確認してください。  *Contex LINKのエラーログ画面*
メール送信ができない	正しいアドレスを入力してもエラーになり、本体のメールアイコンに赤い点が表示される場合。 送信メール設定が正しくない可能性があります。［Settings > System > Email］で設定を確認してください。「メールサーバーの設定」で、各項目と認証に関する注記を確認してください。 **注：メール設定は、ご利用の組織のIT環境に依存します。サーバーへのアクセスに必要な認証や利用許可の設定は、利用者がメール管理者・サービス提供元に確認し、ご自身で実施してください。**

スキャン結果に関する問題

症状	考えられる原因と対処
スキャン画像の色が原稿と異なる	スキャナの補正を行い、色の設定を調整してください。 1. 「スキャンエリアの清掃」に従って、内部を入念に清掃します。 2. 補正ウィザードを起動し、「スキャナの補正」の手順に従います。 3. 必ず完全補正を選んでください。
コピーの印刷色が原稿と異なる	1. ［Media］がプリンタに装填した用紙と一致することを確認します。異なる場合は修正してください。「コピー設定」を参照してください。 2. 用紙設定が正しい場合は、用紙プロファイルを作り直してください。 a) 「スキャンエリアの清掃」に従って、内部を入念に清掃します。 b) 「スキャナの補正」に従って補正ウィザードを実行し、必ず完全補正を選びます。 続いて、新しい用紙プロファイルを作成します。 c) ［Settings > Printer］を開きます。 d) ［Media Profile］を選び、作成ウィザードを開始します。 e) 画面の指示に従います。詳細は「プリンタの用紙プロファイルを作成する」を参照してください。
画像全体が読み取られない	原稿が正しく置かれているか確認します。 1. 原稿の中央を、本体の中央矢印に合わせてください。 2. 読み取る面を下にして置いてください。
画像の左右に大きな余白ができる	緑色の開始ボタンを押す前に、スキャン設定の［Area］を確認します。 • ［All］では、原稿サイズに関係なくスキャナの全幅を読み取るため、左右に余白ができます。 • 原稿の幅だけを読み取るには、［Auto］を選びます。
画像の一部が欠ける	• アプリケーションのサイズ設定が自動検出か、原稿全体の寸法と一致していることを確認します。 • 原稿を位置合わせガイドに従って正しくセットしているか確認します。

付録

安全に関する重要な注意事項

すべての指示を読み、後で参照できるよう保管してください。本体に表示された警告と指示にも従ってください。

注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。

使用済み電池は、所定の指示に従って処分してください。



警告：本体底面の穴に指を近づけないでください。

A. 不安定な台、スタンド、カート、テーブルに置かないでください。落下すると重大な損傷につながります。

B. 液体クリーナーは本体へ直接塗布・噴霧せず、布に含ませてから拭いてください。

C. 清掃や利用者が交換できる部品の交換前には、電源を切り、電源プラグを抜いてください。

D. 定格ラベルに記載された電源を使用してください。不明な場合は販売店や電力会社に確認してください。

E. 本機はIT、TT、TNの配電方式で使用するよう設計され、アース付き3極プラグを備えています。安全性は建物側の接地設備にも依存します。適合しない古いコンセントは電気工事担当者に交換を依頼してください。アース機能を無効にしないでください。

F. 電源コードの上に物を置かず、人がコードを踏む場所に設置しないでください。

G. 延長コードを使用する場合は、接続機器の合計電流がコードの定格を超えないようにしてください。壁コンセントに接続する機器の合計電流は15 Aを超えないようにしてください。

H. 背面や底面の通気口は、正常な動作と過熱防止のために設けられています。塞いだり覆ったりしないでください。ベッド、ソファ、敷物など柔らかい面に置かないでください。暖房器具の付近を避け、十分な換気がない収納部への設置はしないでください。

I. 通気口から異物を入れないでください。高電圧部への接触や短絡により、火災・感電のおそれがあります。本体に液体をこぼさないでください。

J. 利用者自身で内部の修理を行わないでください。工具が必要なカバーを開けると、高電圧などの危険にさらされます。内部の保守は認定サービス担当者に依頼してください。

K. 次の場合は電源プラグを抜き、認定サービス担当者に点検・修理を依頼してください。

- 電源コードやプラグが損傷・摩耗した場合。
- 本体に液体が入った場合。
- 雨や水にさらされた場合。
- 取扱説明書どおりに操作しても正常に動作しない場合。説明書に記載された項目以外を調整しないでください。不適切な調整は恒久的な損傷や、専門技術者による大規模な修理につながることがあります。
- 本体を落とした場合、または外装が損傷した場合。
- 性能に明らかな変化があり、点検が必要な場合。

付録

規則

FCC規則

米国
本機はFCC規則Part 15のクラスAデジタル機器の制限に適合することが試験で確認されています。この制限は、商業環境での有害な干渉を合理的に防ぐためのものです。本機は高周波エネルギーを発生・使用・放射することがあり、指示に従って設置・使用しない場合は無線通信に有害な干渉を与える可能性があります。住宅地で使用して干渉が生じた場合は、利用者の費用負担で対処する必要があります。
注意：FCC規則Part 15.21に基づき、メーカーが明示的に承認していない変更・改造は、有害な干渉を生じさせ、機器を使用する権限を無効にすることがあります。

CE規則

EU
本機はクラスA製品です。家庭環境では電波干渉を起こす可能性があり、適切な対処が必要になる場合があります。

VCCI規則

日本
本機は、VCCI:2008（CISPR 22）のクラスA製品の制限に適合することが試験で確認されています。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI－A

有害物質または元素

有毒有害物质或元素名称及含量

部品名 部件名称	有害物質または元素					
	鉛（Pb） 铅	水銀（Hg） 汞	カドミウム（Cd） 镉	六価クロム（Cr（VI）） 六价铬	ポリ臭化ビフェニル（PBB） 多溴联苯	ポリ臭化ジフェニルエーテル（PBDE） 多溴二苯醚
スキャナ 扫描仪	O	O	O	O	O	O

O：当該部品のすべての均質材料に含まれる当該有害物質の量が、SJ/T11363-2006の限度値以下であることを示します。
表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006标准规定的限量要求以下。
X：当該部品の少なくとも1つの均質材料に含まれる当該有害物質の量が、SJ/T11363-2006の限度値を超えることを示します。
表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出 SJ/T11363-2006 标准规定的限量要求。
企業は、実際の状況に基づき「X」とした技術的な理由をこの欄に追記できます。
企业可在此处根据实际情况对上表中打“ X”的技术原因进行进一步说明。)

警告
スキャン中は、光源から赤外線や紫外線が放出されることがあります。通常はカバーを閉じてスキャンしてください。
厚い原稿などでカバーを閉じられない場合は、開いた状態で読み取れます。その際は光源を直視したり、原稿を手で押さえたりしないでください。